

三豊市第2次総合計画策定のための
市民アンケート調査結果報告書

平成29年12月

三 豊 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法、回収結果	1
(3)	本報告書の留意事項	1
2	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	居住地区	2
II	調査結果	3
1	まちへの愛着度と定住思考について	3
(1)	まちへの愛着度について	3
(2)	今後の定住意向について	5
(3)	移りたい理由	7
2	まちの現状と今後の取り組みについて	8
(1)	まちの各環境に関する満足度	8
(2)	まちの各環境に関する重要度	19
(3)	満足度と重要度の相関（優先度）	29
(4)	三豊市は住みやすいと感じるか	32
(5)	住みやすい理由	33
(6)	住みにくい理由	35
3	日頃の行動や考えについて	37
(1)	地域での自主的な活動への参加	37
(2)	経済や産業が活発なまちか	38
(3)	市内の商店での買い物	39
(4)	安心安全なまちか	40
(5)	災害に対する備え	41
(6)	市の講座や教室等を利用した生涯学習活動	42
(7)	ごみ減量化のための3 R運動	43
(8)	環境に配慮した生活	44
(9)	健康増進のための取り組み	45
(10)	地域福祉活動への参加	46
(11)	週1回以上のスポーツ活動	47
(12)	公共交通機関の利用	48
(13)	市内の道路利用の快適さ	49
(14)	自分らしい暮らし方	50

(15) 外国人との交流	51
(16) 意欲のある人が働きやすい環境か	52
(17) 若い世代が働きやすいまちだと思うか	53
(18) 若い世代が暮らしたいと思ふまちか	54
(19) 挑戦する人を進んで応援するまちか	55
(20) 市内の企業や店は子育て支援に積極的か	56
(21) 地域の店は活気があるか	57
(22) 地域に観光客が増えているか	58
(23) 災害に対して住んでいる地域は安全か	59
(24) 自然を守るためなら生活が少し不便でも良いと思ふか	60
(25) 地域の自然環境は守られているか	61
(26) 女性が活躍するまちか	62
(27) 人権を大事にするまちか	63
(28) 若い世代が子育てしやすいまちか	64
(29) 地域の子どもはのびのびと育っているか	65
(30) 子育てを地域で支え合う雰囲気があるか	66
(31) 地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいか	67
(32) 地域の高齢者はいきいきと暮らしているか	68
(33) 食べ物や飲み水は安心か	69
(34) 市内のどこへでも便利に移動できるか	70
(35) 地域の公共交通は便利か	71
(36) 地域は買い物や通勤、通学、通院に便利か	72
(37) 地域は安全・安心を守る取り組みが盛んか	73
(38) 地域に自分の活躍の場があるか	74
(39) 地域内の異なる世代の人との付き合い	75
(40) 自慢したい地域の風景や名所	76
(41) 目的をもって学んでいること	77
(42) 老後に不安を感じるか	78
(43) 仕事を通じて技術や能力が高まっているか	79
(44) 仕事にやりがいを感じるか	80
(45) 個人の考えが尊重されるまちか	81
(46) 市役所へ手続きや相談等に行ったか	82
(47) 各支所へ手続きや相談等に行ったか	83
(48) 困ったときに相談できる人が近所や地域にいるか	84
(49) 市内にかかりつけの医者があるか	85
(50) 住んでいる家に満足しているか	86
(51) 学校以外の教育環境	87
(52) 災害時の避難路・避難場所	88
(53) 男女共同参画社会という言葉を知っているか	89
(54) 地元や市内でとれた農水産物	90
(55) 「広報みとよ」を読んでいるか	91

(56) 市のホームページを見たことがあるか	92
(57) 夜 9 時以降に地域を安心して歩けるか	93
(58) 環境に配慮した日用品を選んでいるか	94
(59) 節水を心がけているか	95
(60) 仕事と生活のバランスが希望通りか	96
4 これからの行政サービスについて	97
(1) 行政と市民の役割分担のあり方について	97
(2) これからの行財政改革の進め方について	98
(3) 人口減少の影響を感じているか	99
(4) どのようなところに人口減少の影響を感じているか	100
(5) 人口減少に歯止めをかけるために必要なこと	101
資料 アンケート調査票	103

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、三豊市第2次総合計画（2019年4月～2028年3月）の策定にあたって、まちへの愛着度や今後の定住意向をはじめ、まちの各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、市民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項 目	内 容
調査対象	16歳以上の市民
配布数	2,500
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	平成29年9月
調査地域	市内全域。ただし、分析上は地域的傾向を把握するため、以下の7地区に区分した。 1. 高瀬地区 2. 山本地区 3. 三野地区 4. 豊中地区 5. 詫間地区 6. 仁尾地区 7. 財田地区
有効回収数	940
有効回収率	37.6%

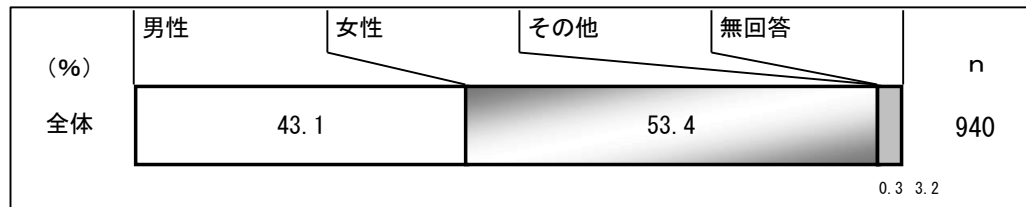
(3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100％を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100％として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、従って、各回答の合計比率は100％を超える場合があります。

2 回答者の属性

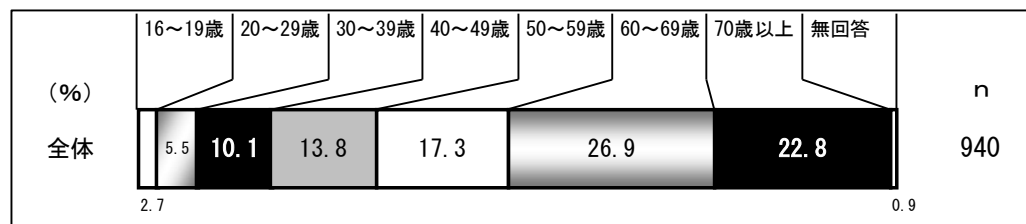
(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」(53.4%)、「男性」(43.1%)となっています。



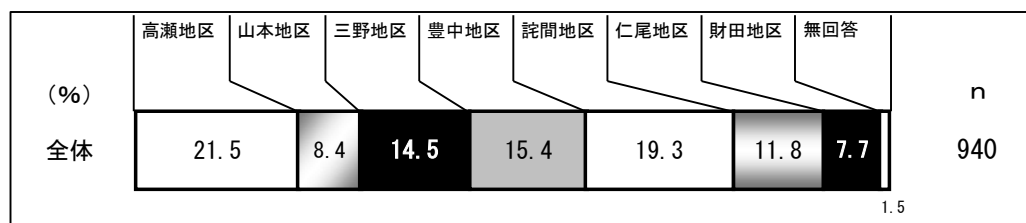
(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「60～69 歳」(26.9%)、「70 歳以上」(22.8%)、「50～59 歳」(17.3%)、「40～49 歳」(13.8%)、「30～39 歳」(10.1%)、「20～29 歳」(5.5%)、「16～19 歳」(2.7%)となっています。



(3) 居住地区

回答者の居住地区は、「高瀬地区」(21.5%)、「詫間地区」(19.3%)、「豊中地区」(15.4%)、「三野地区」(14.5%)、「仁尾地区」(11.8%)、「山本地区」(8.4%)、「財田地区」(7.7%)となっています。



Ⅱ 調査結果

1 まちへの愛着度と定住思考について

(1) まちへの愛着度について

問2 あなたは、三豊市に「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。



- “愛着を感じている”が86.5%、“愛着を感じていない”が11.7%。

市民のまちに対する愛着度を把握するため、「愛着を感じている」、「どちらかといえば感じている」、「どちらかといえば感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「愛着を感じている」と答えた人が44.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば感じている」と答えた人が42.4%で続き、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が86.5%と9割弱にのぼっています。これに対し、“愛着を感じていない”という人（「どちらかといえば感じていない」(9.4%)と「愛着を感じていない」(2.3%)の合計）は11.7%となっており、町への愛着度はかなり高いといえます。

前回のアンケート結果（“愛着を感じている”が79.2%、“愛着を感じていない”が6.6%）と比較すると、“愛着を感じている”率が約7ポイント上昇しており、愛着度がやや高まっていることがうかがえます。

属性別で“愛着を感じている”率をみると、性別では、男性が87.7%、女性が87.4%と、ほぼ同じ割合となっています。

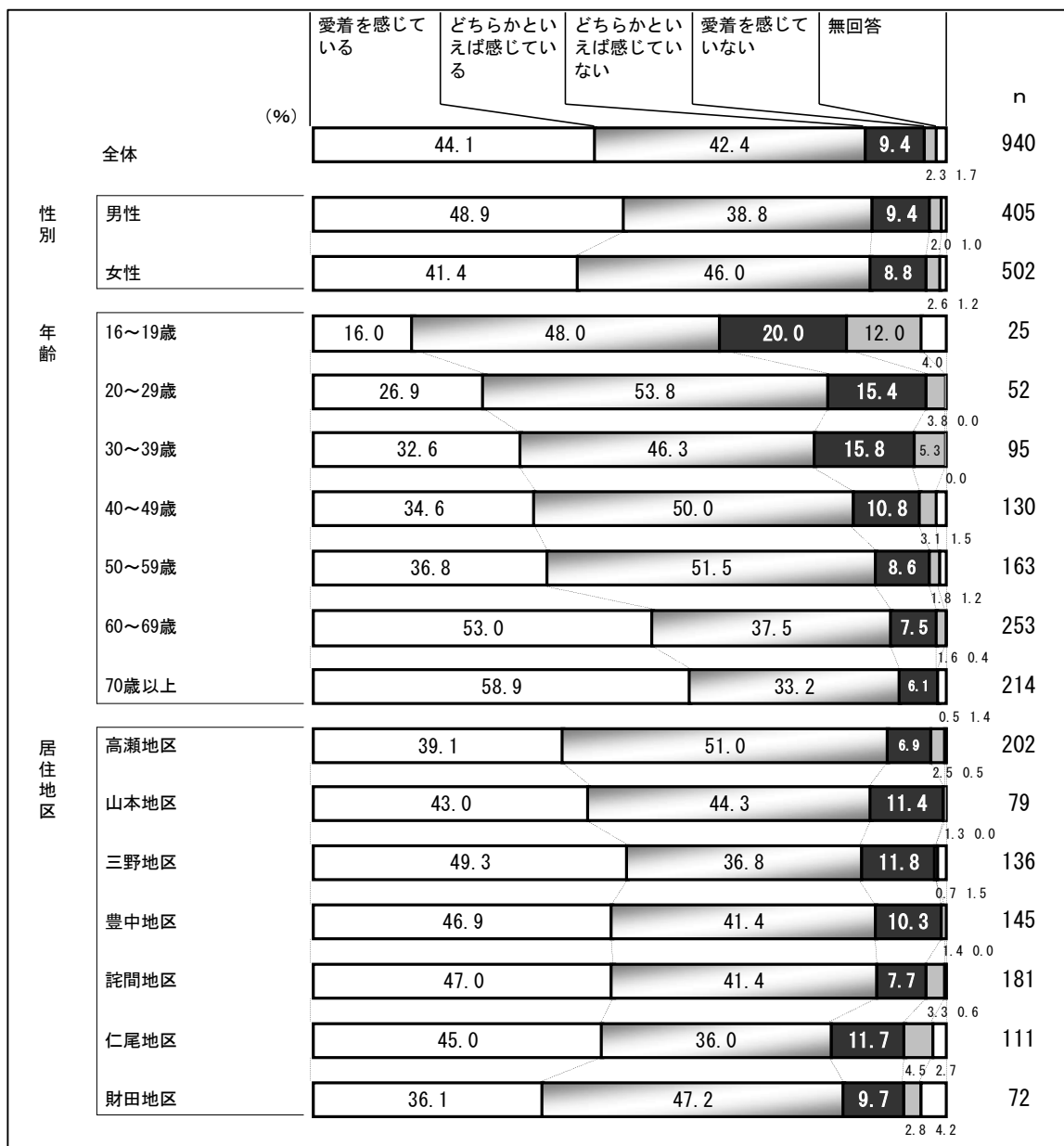
年齢別では、16～19歳で最も低くなっていますが、全体的には年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、最も高い70歳以上では92.1%となっています。

〔図表1参照〕

【比較】

前回アンケート	“愛着を感じている”が79.2%、“愛着を感じていない”が6.6%。
小中学生アンケート	“好き”が82.1%、“嫌い”が1.8%。

図表1 町への愛着度について（全体・性別・年齢・居住地区）



(2) 今後の定住意向について

問3 あなたは、今後も三豊市に住み続けたいと思いますか。



- “住みたい” が 86.1%、“移りたい” が 7.3%。

今後の定住意向を把握するため、「今の場所にずっと住み続けたい」、「当分の間は今の場所に住みたい」、「市内の別の場所に移りたい」、「できれば市外に移りたい」、「すぐにでも市外に移りたい」、「わからない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「今の場所にずっと住み続けたい」と答えた人が 62.4%で最も多く、次いで「当分の間は今の場所に住みたい」と答えた人が 23.7%で続き、これらをあわせた“住みたい”という人が 86.1%と9割弱を占めています。これに対し、“移りたい”（「できれば市外に移りたい」(4.0%)、「市内の別の場所に移りたい」(2.0%)、「すぐにでも市外に移りたい」(1.3%)の合計）という人は 7.3%と1割に満たず、問2の愛着度と同様に定住意向もかなり強いといえます。

前回のアンケート結果（“住みたい” が 83.9%、“移りたい” が 9.0%）と比較すると、“住みたい” が約2ポイント上昇しています。

属性別で“住みたい”率をみていくと、性別では、男性が 88.7%、女性が 85.1%となっています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上で 93.5%と最も高く、16～19歳で 36.0%と最も低くなっています。

居住地区別では、高瀬地区（91.1%）で最も高く、次いで山本地区（89.9%）、三野地区（89.7%）、豊中地区（88.9%）、詫間地区（87.9%）、仁尾地区（81.1%）、財田地区（77.8%）の順となっています。[図表2参照]

【比較】

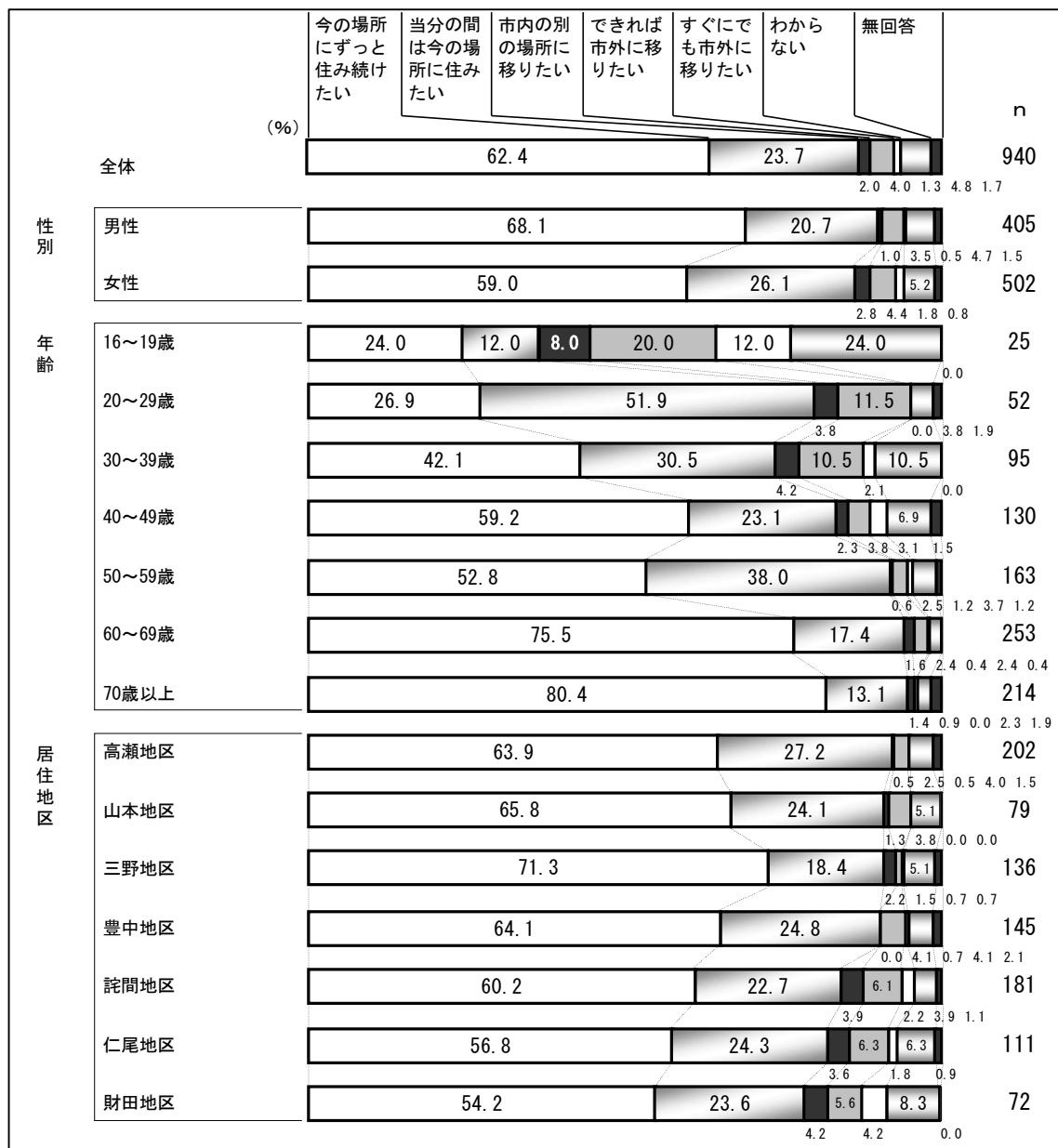
前回アンケート

“住みたい” が 83.9%、“移りたい” が 9.0%。

小中学生アンケート

「住みたい」が 41.5%、「住みたくない」が 16.9%。

図表2 今後の定住意向について（全体・性別・年齢・居住地区）



(3) 移りたい理由

【問3で「3.」、「4.」、「5.」のいずれかに回答した方のみ】

問3-1 「移りたい」理由はどれですか。【複数回答】



- 「交通の便が悪い」、「買い物に不便」、「娯楽や遊戯施設が少ない」、「地域の人間関係」の順。

問3で“移りたい”と回答した69人（全体の7.3%）に、その理由をたずねたところ、「交通の便が悪い」（52.2%）、「買い物に不便」（43.5%）、「娯楽や遊戯施設が少ない」（36.2%）、「地域の人間関係」（26.1%）、「仕事、通学の関係」（18.8%）、「地域に愛着がない」（17.4%）、「住宅の都合」（15.9%）、「結婚するから」（2.9%）の順となっています。

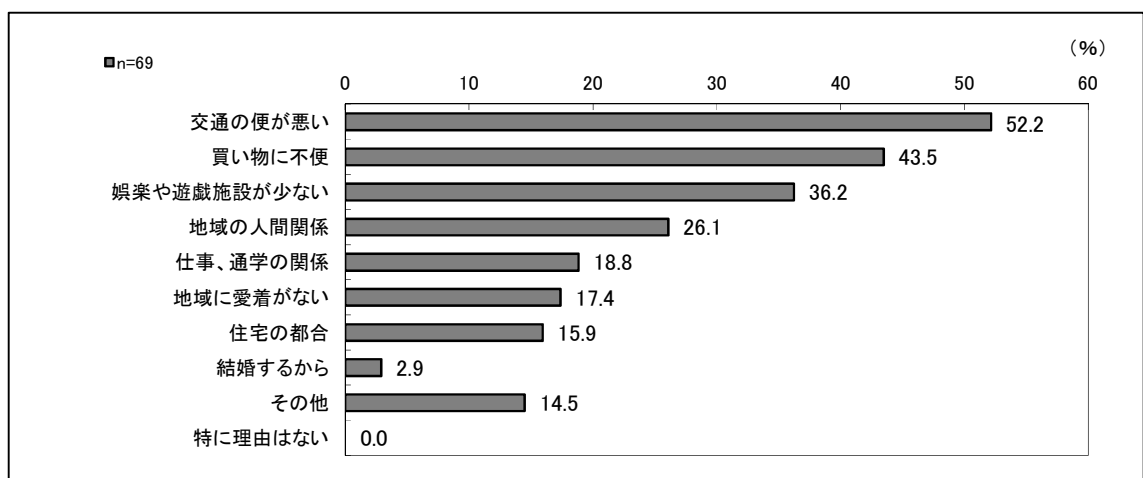
前回のアンケート結果（第1位「交通の便が悪い」、第2位「買い物に不便」・「娯楽や遊戯施設が少ない」（同率）、第4位「地域の人間関係になじめない」と比較すると、上位3位は同じ傾向となっています（属性別の分析は回答者数が少ないため省略）。[図表3参照]

【比較】

前回アンケート

「交通の便が悪い」が第1位、「買い物に不便」と「娯楽や遊戯施設が少ない」が同率第2位。

図表3 移りたい理由（全体／複数回答）



2 まちの現状と今後の取り組みについて

(1) まちの各環境に関する満足度

問4 あなたは、毎日の生活の中で、生活環境や行政サービス、施設についてどれくらい満足していますか。また、今後の取り組みとして、どれくらい重要だとお考えですか。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。



- 満足度が最も高い項目は「上水道の安定供給」。次いで「消防体制の強化」、「学校教育の充実」の順。
- 満足度が最も低い項目は「雇用の場の確保」。次いで「農業の振興」、「定住促進対策の推進」の順。

町の各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、産業・雇用分野、環境・生活分野、安全・安心分野、医療・健康・福祉分野、教育・文化分野、人権・住民自治・行財政分野の6分野 52項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の4段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度評価が最も高い項目は「上水道の安定供給」（5.25点）となっており、次いで第2位が「消防体制の強化」（3.77点）、第3位が「学校教育の充実」（3.50点）、以下、「斎場の整備・管理」（3.45点）、「文化財の保存・活用」（3.44点）、「幼稚園教育の充実」（3.42点）、「健康づくりの促進」（3.28点）、「生涯学習社会の形成」（3.22点）、「人権尊重社会の確立」（3.13点）、「文化芸術の振興」（3.10点）、「ごみの適正処理・リサイクルの促進」（3.08点）、「スポーツ活動の普及」（3.02点）などの順となっています。

一方、満足度評価が最も低い項目は「雇用の場の確保」（-2.02点）となっており、次いで第2位が「農業の振興」（-1.57点）、第3位が「定住促進対策の推進」（-1.30点）、以下、「工業の振興」（-0.95点）、「商業の振興」（-0.82点）、「土地の有効利用」（-0.82点）、「公園や広場の整備」（-0.33点）、「観光の振興」（-0.25点）などの順となっています。

全体的にみると、環境・生活分野、安全・安心分野、医療・健康・福祉分野、教育・文化分野、人権・住民自治・行財政分野の満足度が高く、産業・雇用分野の満足度が低くなっており、52項目のうち、満足度がプラス評価の項目が44項目、マイナス評価の項目が8項目となっています。【図表4参照】

また、これを居住地区別でみると、以下のとおりとなっています。

高瀬地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の安定供給」(5.76点)、第2位が「消防体制の強化」(4.55点)、第3位が「生活排水の適正処理」(3.63点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用の場の確保」(-1.55点)、第2位が「農業の振興」(-1.26点)、第3位が「定住促進対策の推進」(-0.91点)となっています。

設定した52項目のうち、プラス評価の項目が44項目、マイナス評価の項目が8項目で、いずれも町全体と同数になっています。[図表5参照]

山本地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の安定供給」(5.96点)、第2位が「斎場の整備・管理」(4.86点)、第3位が「文化芸術の振興」(4.08点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業の振興」(-2.24点)、第2位が「雇用の場の確保」(-1.80点)、第3位が「工業の振興」(-1.10点)となっています。

設定した52項目のうち、プラス評価の項目が44項目、マイナス評価の項目が8項目で、いずれも町全体と同数になっています。[図表5参照]

三野地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の安定供給」(5.39点)、第2位が「幼稚園教育の充実」(4.26点)、第3位が「斎場の整備・管理」(3.95点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用の場の確保」(-2.25点)、第2位が「農業の振興」(-1.25点)、第3位が「定住促進対策の推進」(-1.22点)となっています。

設定した52項目のうち、プラス評価の項目が45項目、マイナス評価の項目が7項目で、プラス評価の項目は町全体よりも1項目多くなっています。[図表5参照]

豊中地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の安定供給」(5.58点)、第2位が「学校教育の充実」(3.97点)、第3位が「消防体制の強化」(3.83点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用の場の確保」(-2.32点)、第2位が「農業の振興」(-1.64点)、第3位が「土地の有効利用」(-1.27点)となっています。

設定した52項目のうち、プラス評価の項目が45項目、マイナス評価の項目が7項目で、プラス評価の項目は町全体よりも1項目多くなっています。[図表5参照]

詫間地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の安定供給」(5.00点)、第2位が「健康づくりの促進」(4.04点)、第3位が「ごみの適正処理・リサイクルの促進」(3.92点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業の振興」(-1.49点)、第2位が「雇用の場の確

保」(-1.48 点)、第 3 位が「商業の振興」(-1.04 点)となっています。

設定した 52 項目のうち、プラス評価の項目が 45 項目、マイナス評価の項目が 7 項目で、プラス評価の項目は町全体よりも 1 項目多くなっています。[図表 5 参照]

仁尾地区

満足度の上位 3 項目は、第 1 位が「学校教育の充実」(4.11 点)、第 2 位が「消防体制の強化」(4.05 点)、第 3 位が「墓地の整備・管理」(3.86 点)となっています。

一方、下位 3 項目は、第 1 位が「商業の振興」(-3.45 点)、第 2 位が「工業の振興」(-3.45 点)、第 3 位が「雇用の場の確保」(-3.05 点)となっています。

設定した 52 項目のうち、プラス評価の項目が 37 項目、マイナス評価の項目が 14 項目、中間点が 1 項目で、プラス評価の項目は町全体よりも 7 項目少なくなっています。[図表 5 参照]

財田地区

満足度の上位 3 項目は、第 1 位が「斎場の整備・管理」(5.68 点)、第 2 位が「上水道の安定供給」(5.43 点)、第 3 位が「消防体制の強化」(3.67 点)となっています。

一方、下位 3 項目は、第 1 位が「雇用の場の確保」(-2.34 点)、第 2 位が「農業の振興」(-2.28 点)、第 3 位が「商業の振興」(-2.02 点)となっています。

設定した 52 項目のうち、プラス評価の項目が 42 項目、マイナス評価の項目が 9 項目、中間点が 1 項目で、プラス評価の項目は町全体よりも 2 項目少なくなっています。

[図表 5 参照]

※加重平均値による評価点（満足度）の算出方法

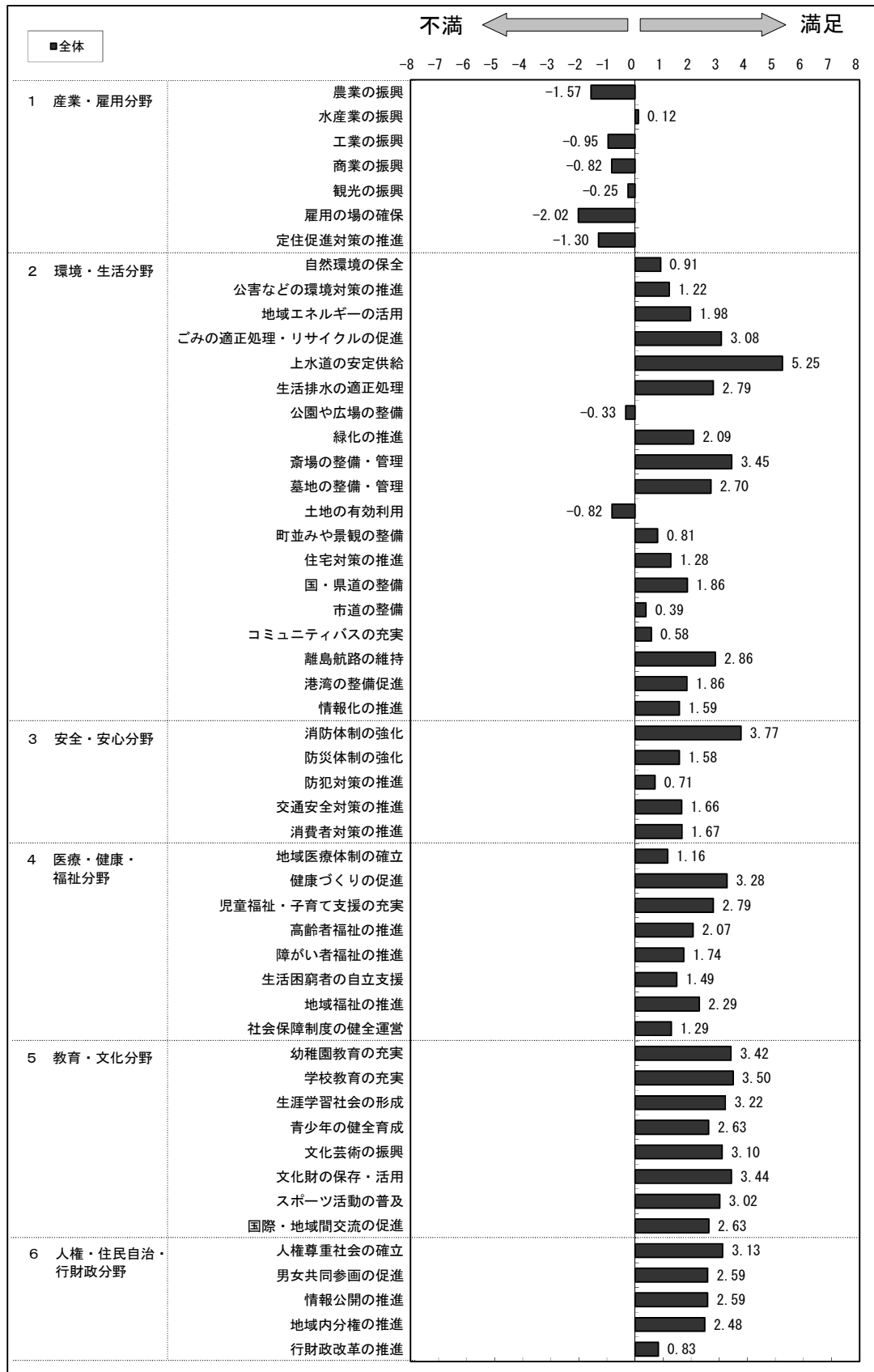
5 段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{かといえば不満である」、「不満} \\ \text{である」の回答者数} \end{array} \right]} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は 10 点～-10 点の間に分布し、中間点の 0 点を境に、10 点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10 点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表4 まちの各環境に関する満足度（全体）

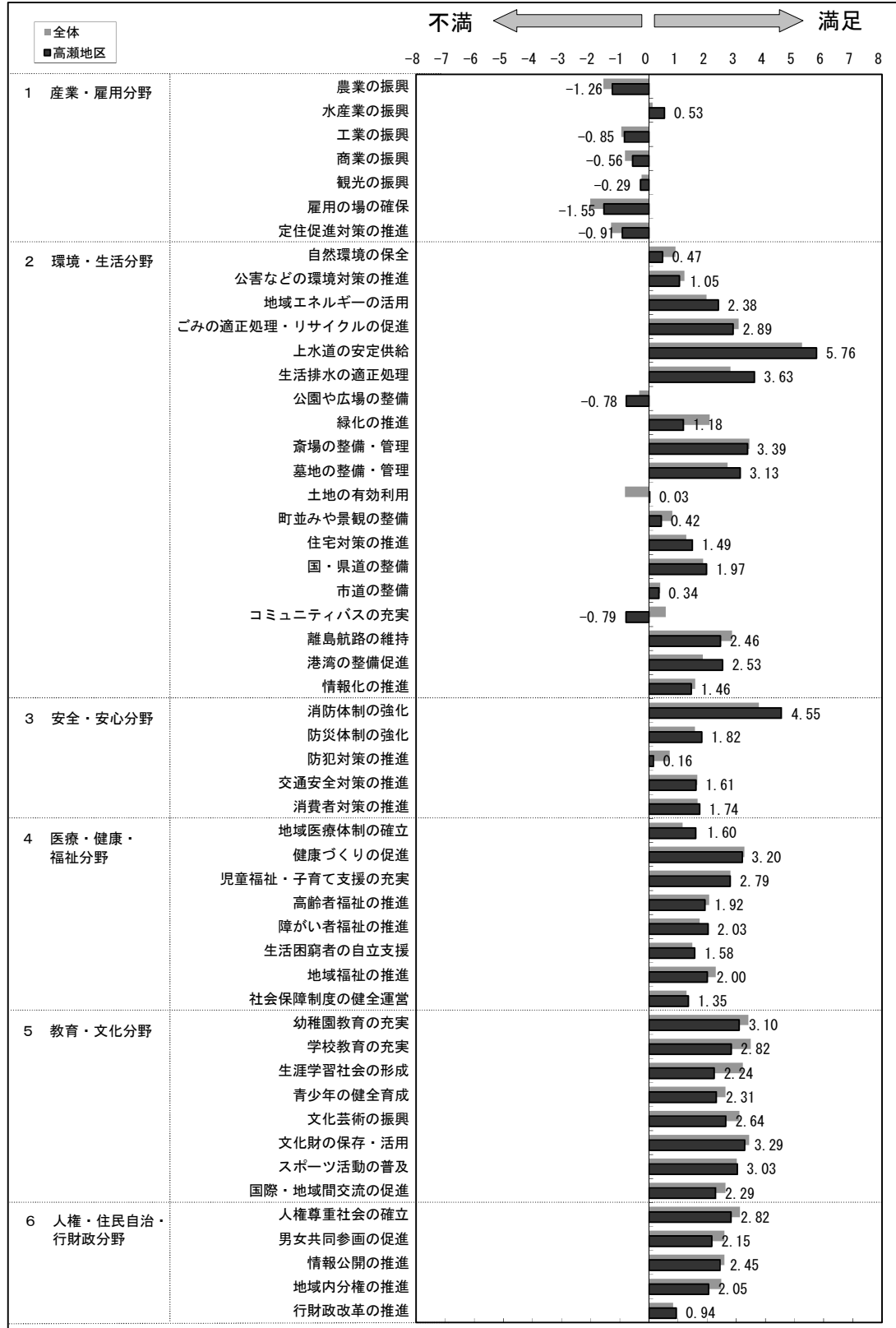
（単位：評価点）



図表 5 まちの各環境に関する満足度（居住地区）

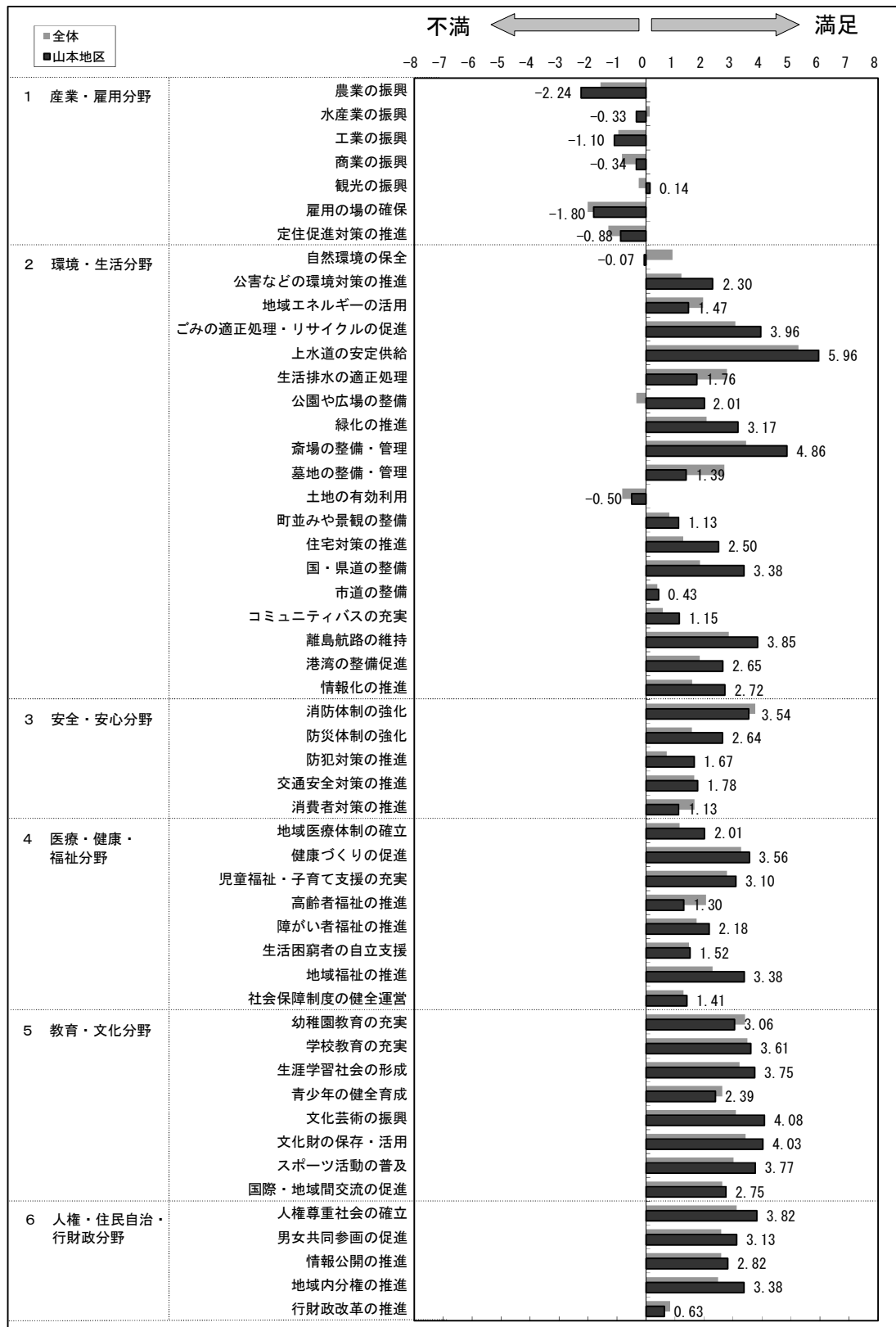
高瀬地区

（単位：評価点）



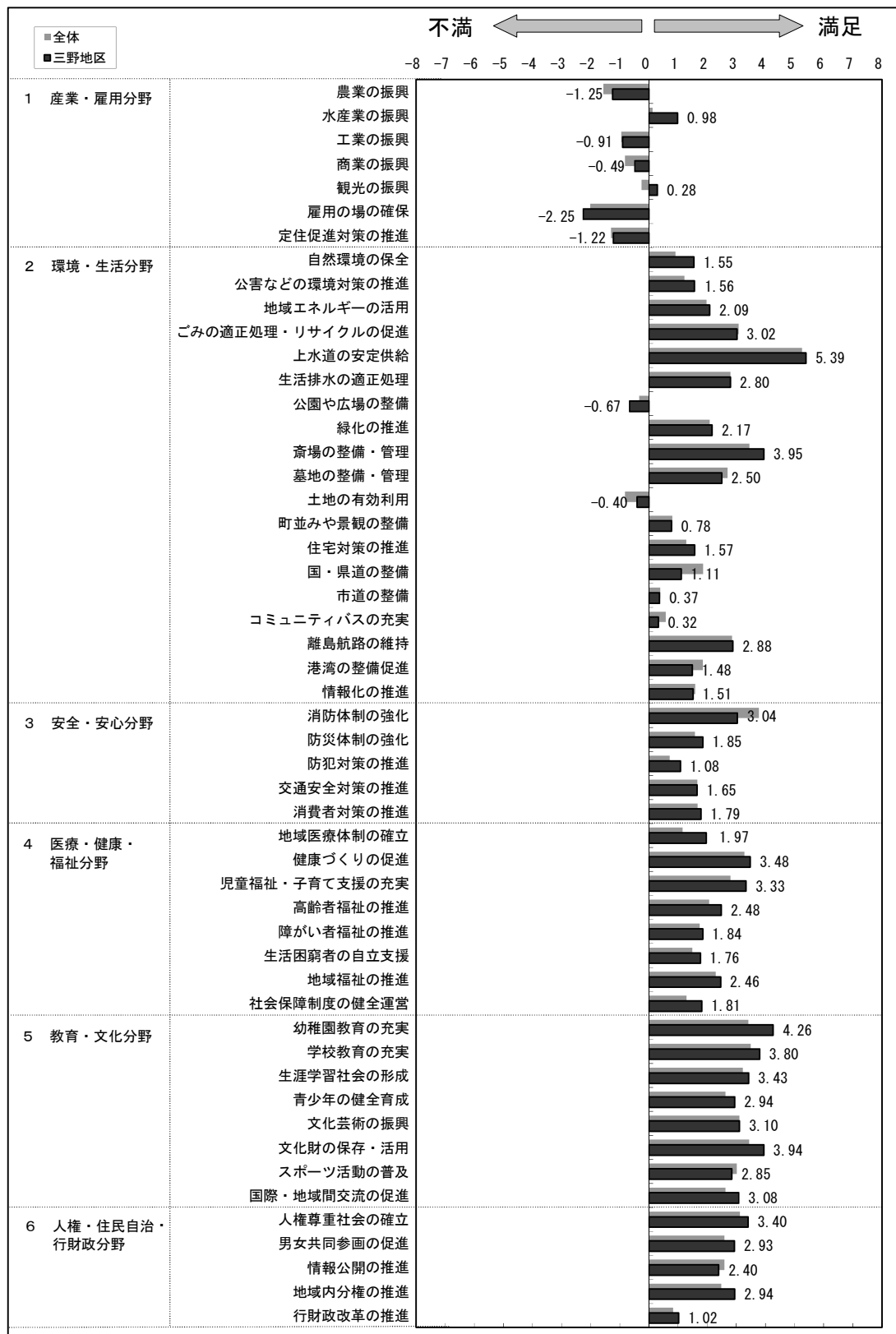
山本地区

(単位：評価点)



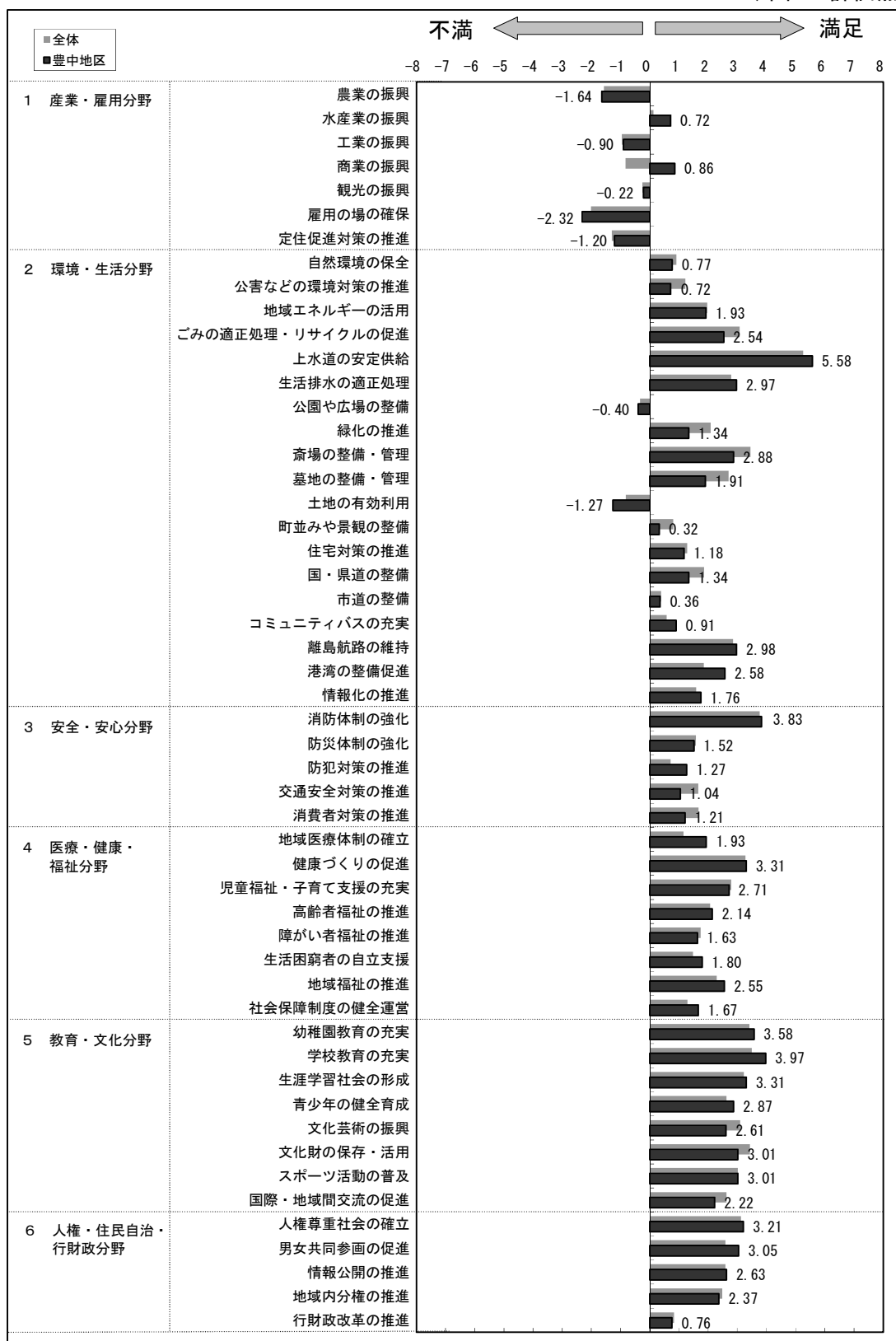
三野地区

(単位：評価点)



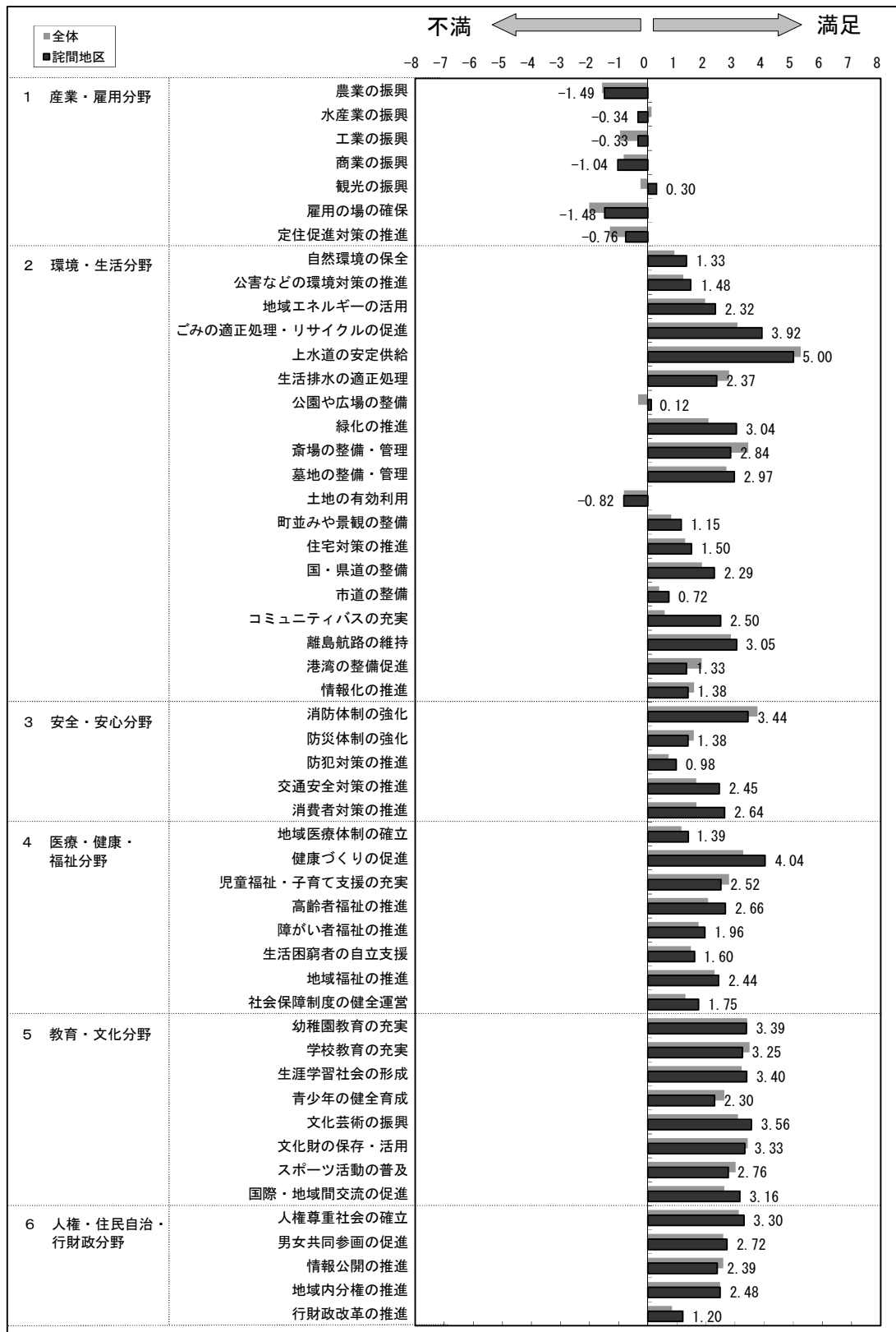
豊中地区

(単位：評価点)



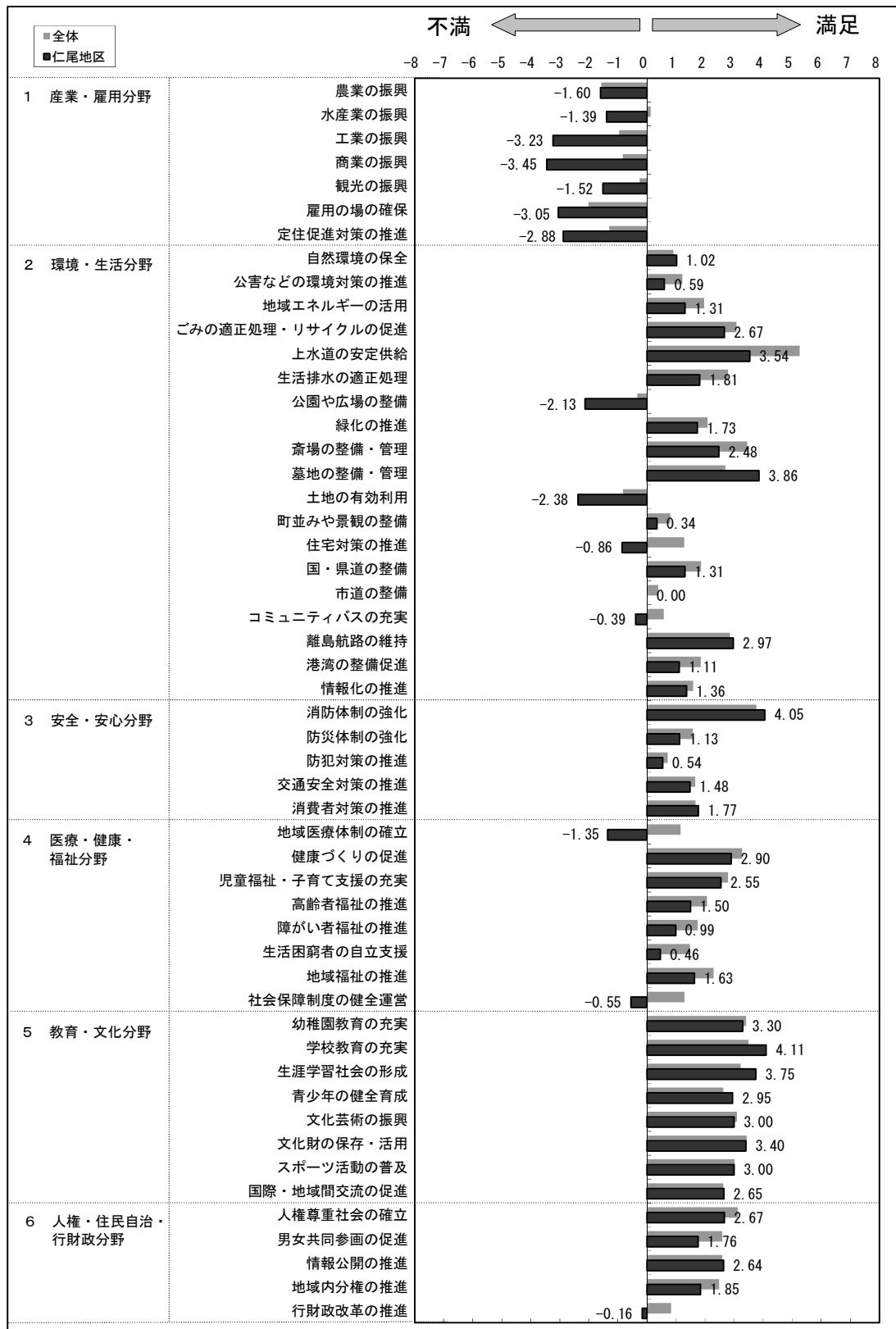
詫間地区

(単位：評価点)



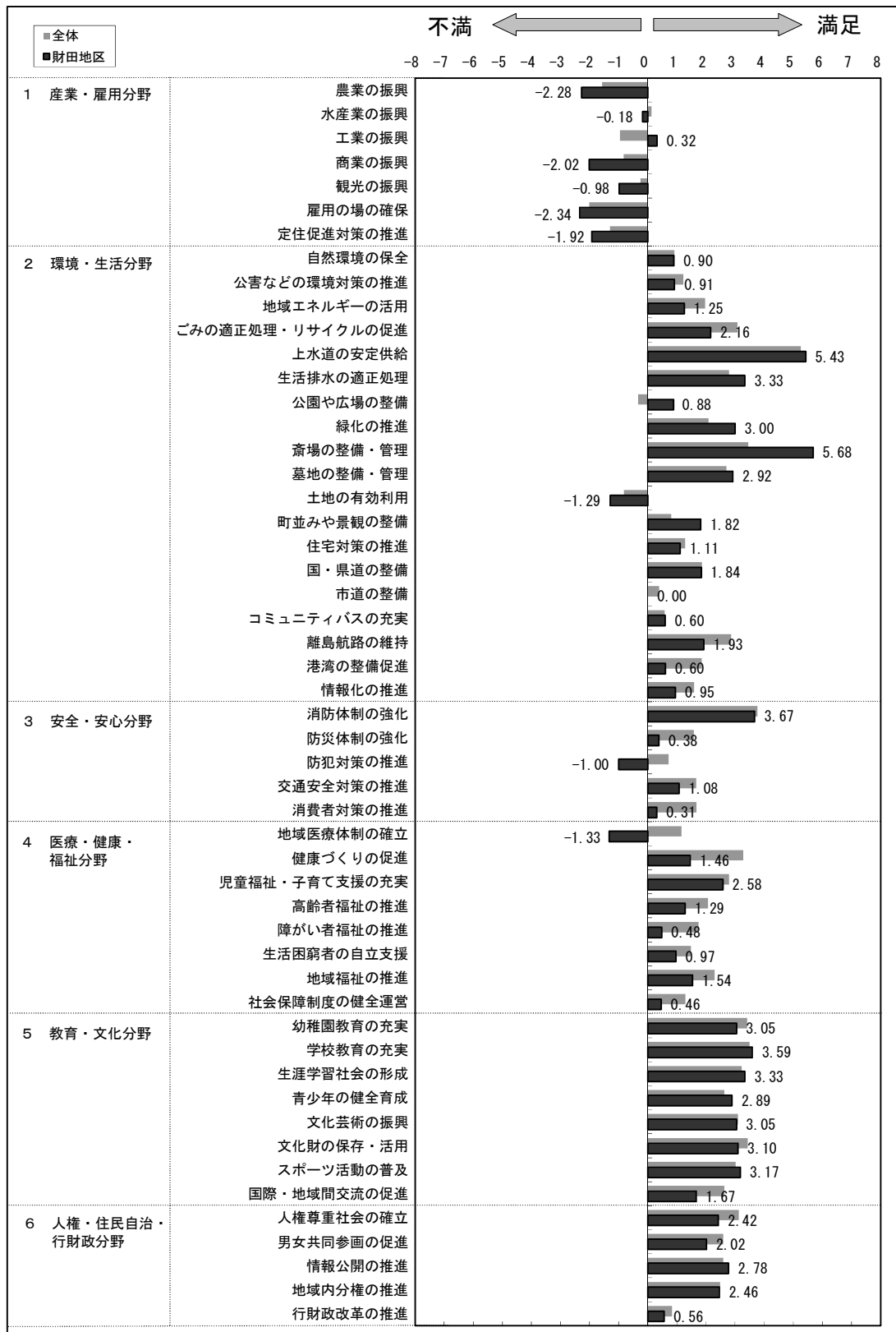
仁尾地区

(単位：評価点)



財田地区

(単位：評価点)



(2) まちの各環境に関する重要度

問4 あなたは、毎日の生活の中で、生活環境や行政サービス、施設についてどれくらい満足していますか。また、今後の取り組みとして、どれくらい重要だとお考えですか。
(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重要と思いますか。



- 重要度が最も高い項目は「上水道の安定供給」。次いで「地域医療体制の確立」、「防災体制の強化」、「学校教育の充実」、「防犯対策の推進」の順。

まちの各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ6分野52項目について、「重要である」、「どちらかといえば重要である」、「どちらかといえば重要ではない」、「重要ではない」の4段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度評価が最も高い項目は「上水道の安定供給」（7.82点）となっており、次いで第2位が「地域医療体制の確立」（7.24点）、第3位が「防災体制の強化」（7.22点）、以下、「学校教育の充実」（7.13点）、「防犯対策の推進」（7.11点）、「生活排水の適正処理」（7.09点）、「社会保障制度の健全運営」（7.07点）、「雇用の場の確保」（7.02点）、「児童福祉・子育て支援の充実」（7.01点）、「高齢者福祉の推進」（6.92点）、「幼稚園教育の充実」（6.91点）などの順となっています。

これら上位項目をみると、ほとんどが環境・生活分野、医療・健康・福祉分野、安全・安心分野の項目となっており、安全・安心な生活環境づくりと健康福祉のまちづくりが重視されていることがうかがえます。【図表6参照】

また、これを居住地区別でみると、以下のとおりとなっています。

高瀬地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」（7.50点）、第2位が「地域医療体制の確立」（7.45点）、第3位が「高齢者福祉の推進」（7.27点）、第4位が「社会保障制度の健全運営」（7.15点）、第5位が「学校教育の充実」（7.08点）となっています。【図表7参照】

山本地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」（7.74点）、第2位が「防災体制の強化」（7.53点）、第3位が「高齢者福祉の推進」（7.23点）、第4位が「生活排水の適正処理」（7.19点）、第5位が「防犯対策の推進」（7.07点）となっています。【図表7参照】

三野地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」（7.46点）、第2位が「雇用

の場の確保」(7.20 点)、第3位が「学校教育の充実」(7.01 点)、第4位が「ごみの適正処理・リサイクルの促進」(6.94 点)、第5位が「生活排水の適正処理」(6.86 点)となっています。[図表7 参照]

豊中地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」(7.81 点)、第2位が「雇用の場の確保」(7.54 点)、第3位が「ごみの適正処理・リサイクルの促進」(7.43 点)、第4位が「生活排水の適正処理」(7.36 点)、第5位が「自然環境の保全」(7.30 点)となっています。[図表7 参照]

詫間地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」(8.18 点)、第2位が「児童福祉・子育て支援の充実」(7.58 点)、第3位が「生活排水の適正処理」(7.55 点)、第4位が「学校教育の充実」(7.48 点)、第5位が「社会保障制度の健全運営」(7.23 点)となっています。[図表7 参照]

仁尾地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」(8.11 点)、第2位が「地域医療体制の確立」(7.76 点)、第3位が「防災体制の強化」(7.68 点)、第4位が「防犯対策の推進」(7.50 点)、第5位が「消防体制の強化」(7.40 点)となっています。[図表7 参照]

財田地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の安定供給」(7.97 点)、第2位が「学校教育の充実」(7.65 点)、第3位が「防災体制の強化」及び「防犯対策の推進」(同点7.58 点)、第5位が「生活排水の適正処理」(7.50 点)となっています。[図表7 参照]

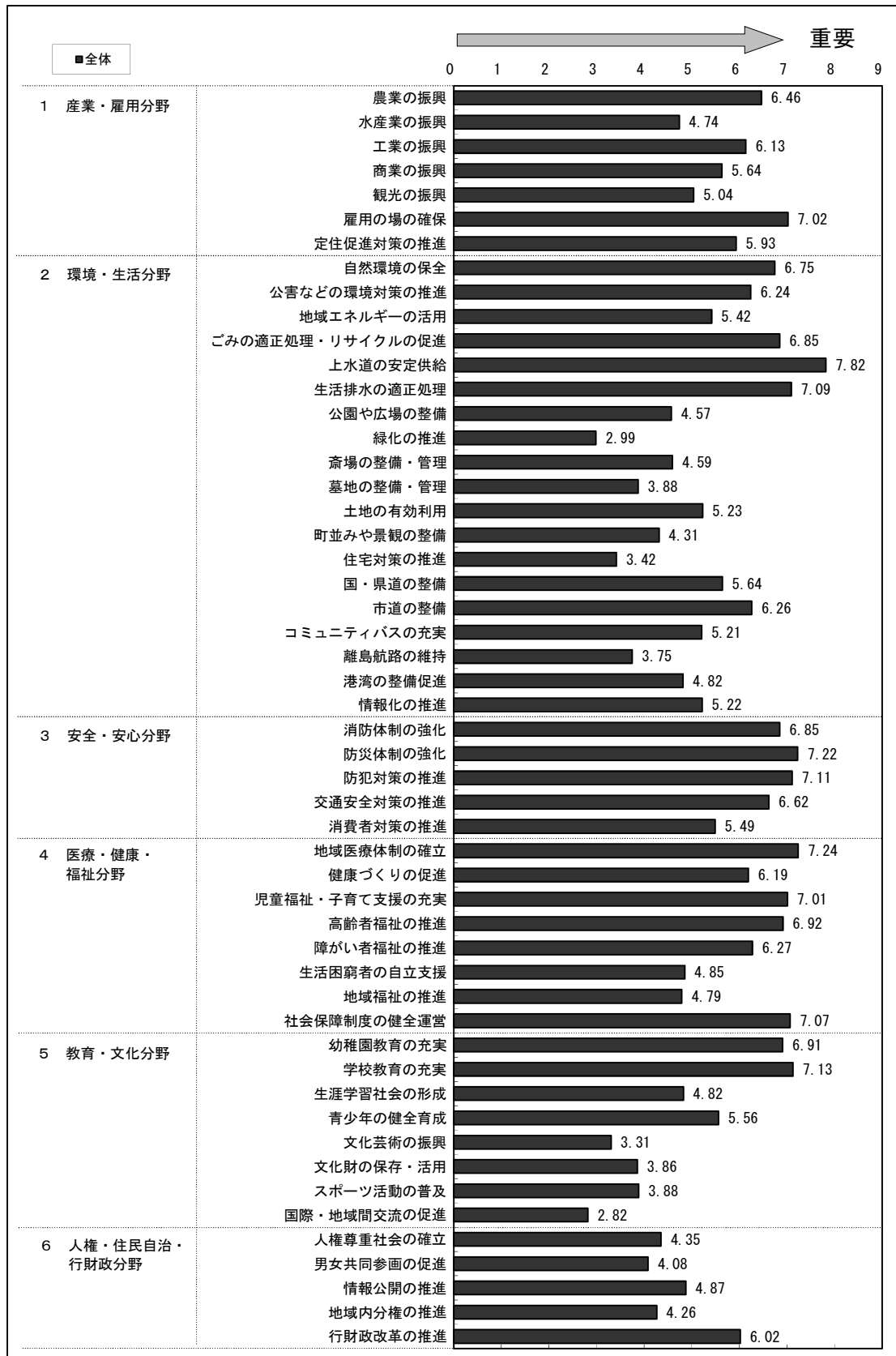
※加重平均値による評価点（重要度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{matrix} \left[\begin{matrix} \text{「重要である」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要である」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要ではない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重要ではない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{matrix} \right] \end{matrix}}{\begin{matrix} \left[\begin{matrix} \text{「重要である」、「どちらかとい} \\ \text{えば重要である」、「どちら} \\ \text{かといえば重要ではない」、} \\ \text{「重要ではない」の回答者数} \end{matrix} \right] \end{matrix}} \div$$

図表6 まちの各環境に関する重要度（全体）

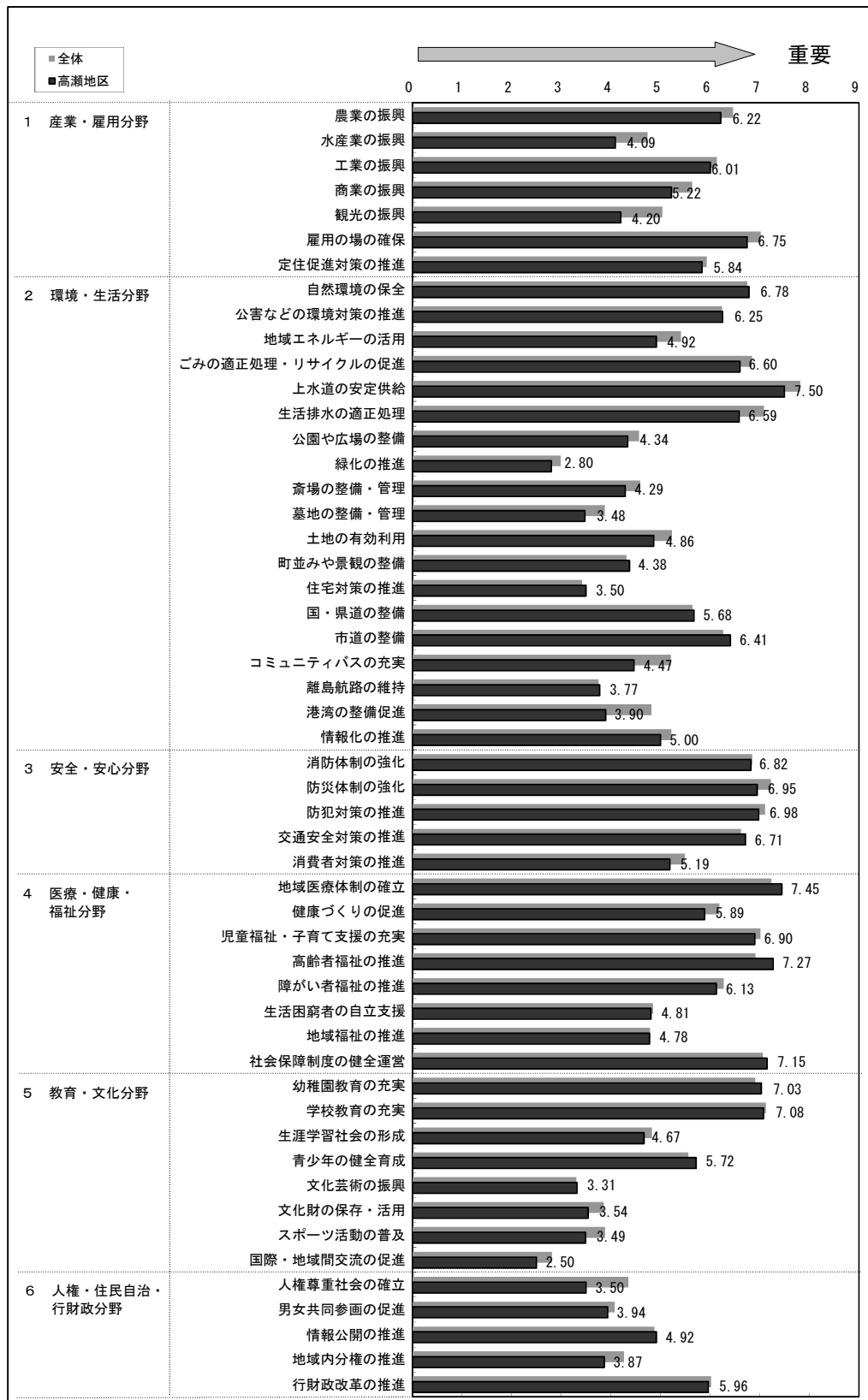
（単位：評価点）



図表 7 まちの各環境に関する重要度（居住地区）

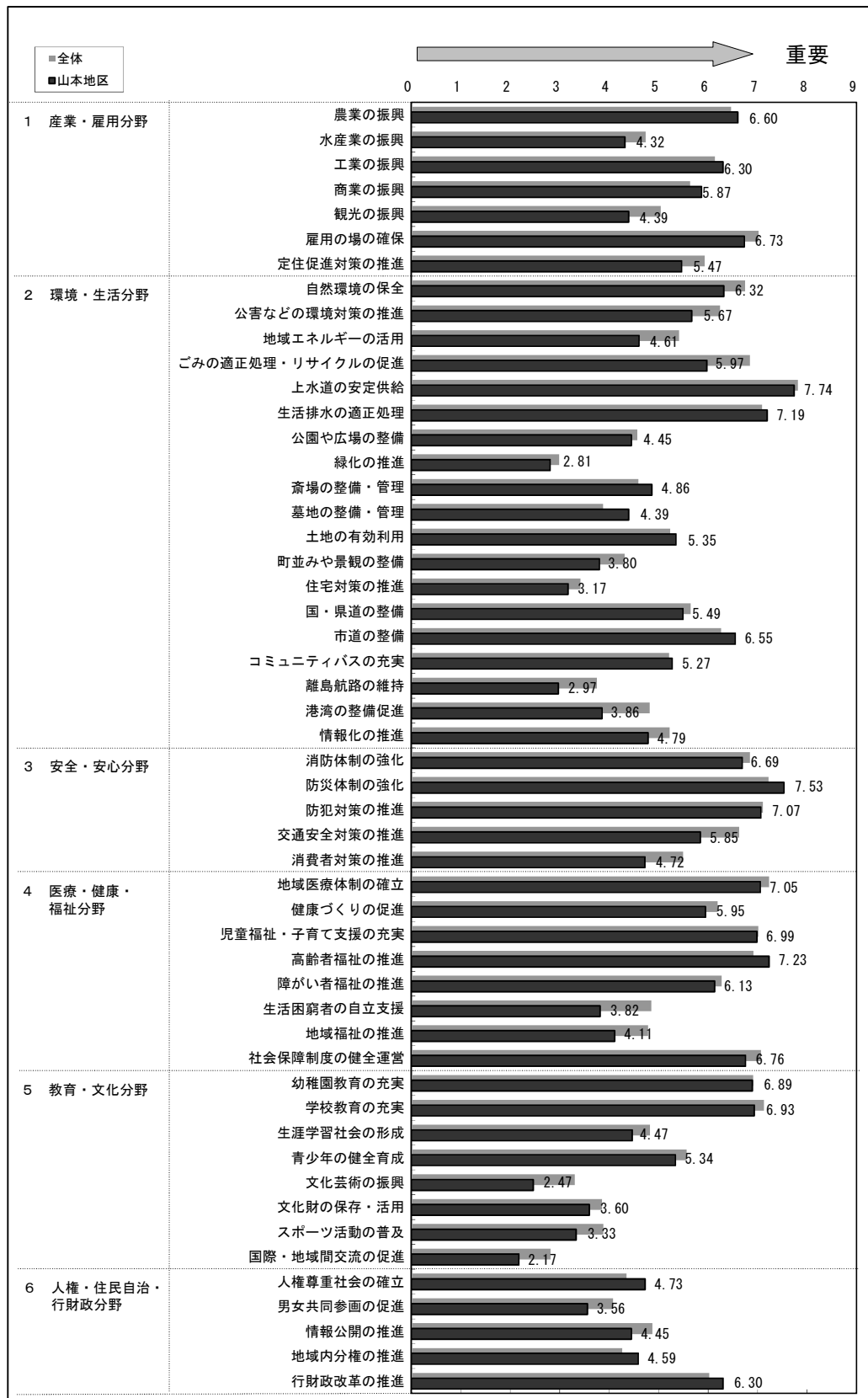
高瀬地区

（単位：評価点）



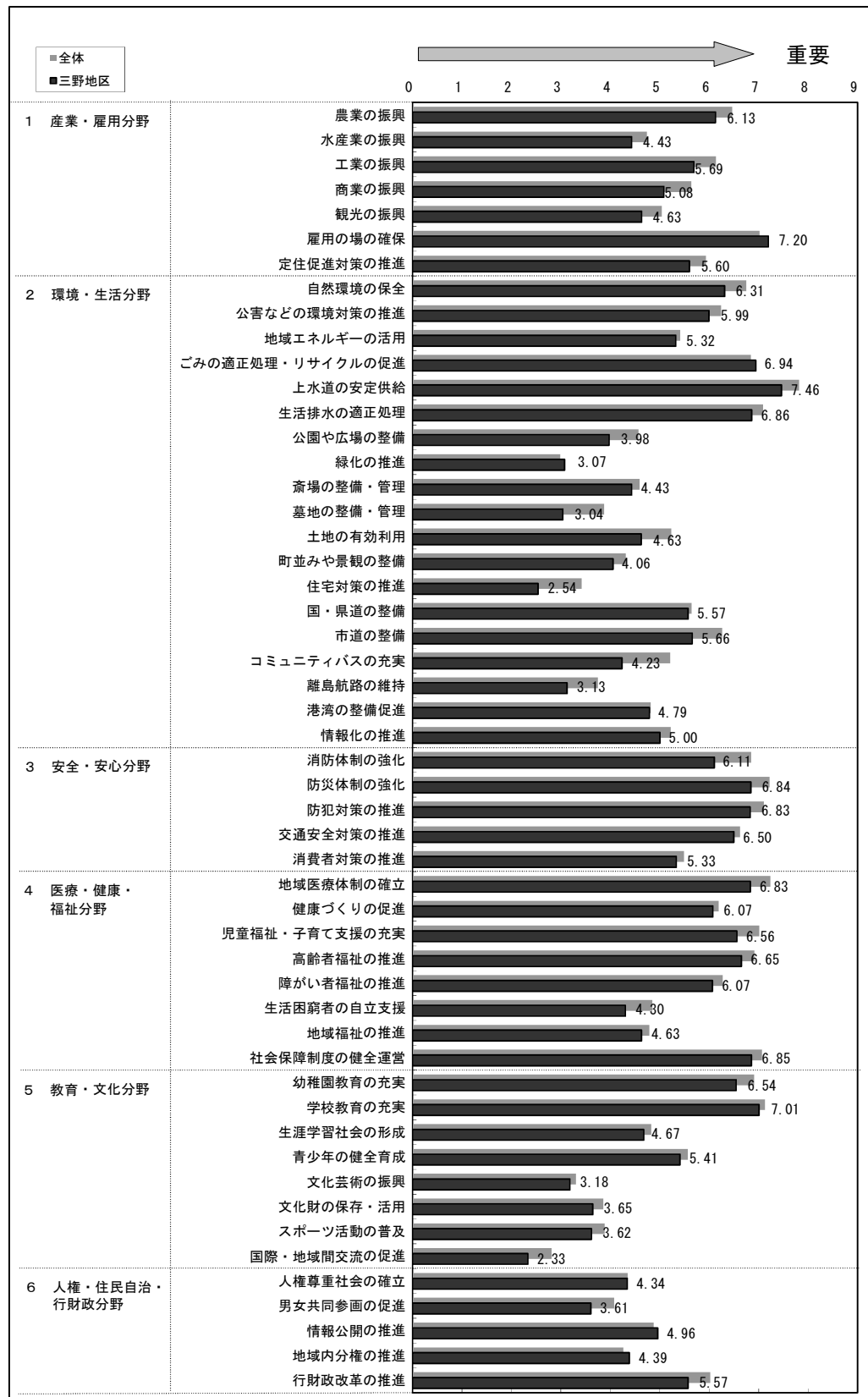
山本地区

(単位：評価点)



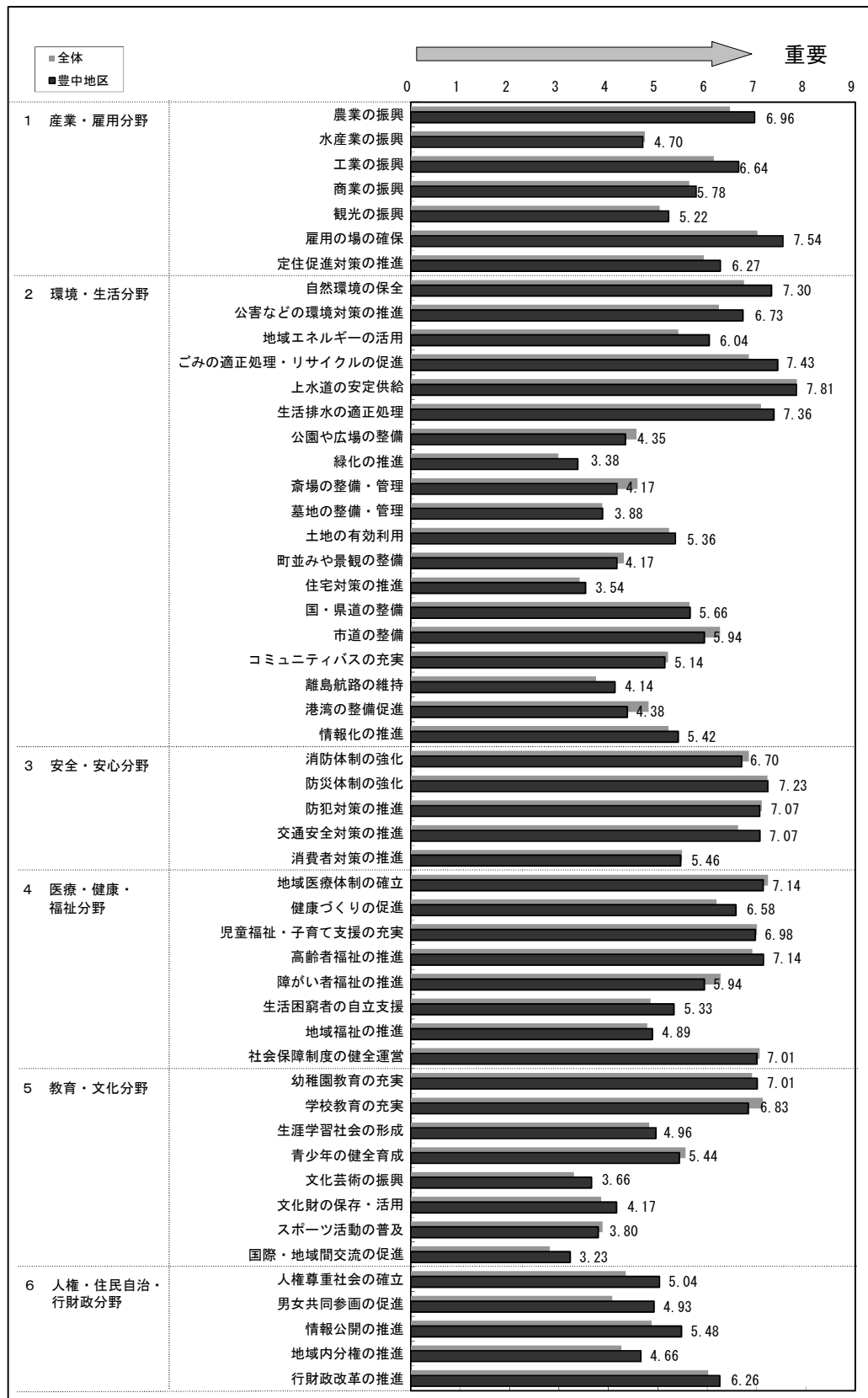
三野地区

(単位：評価点)



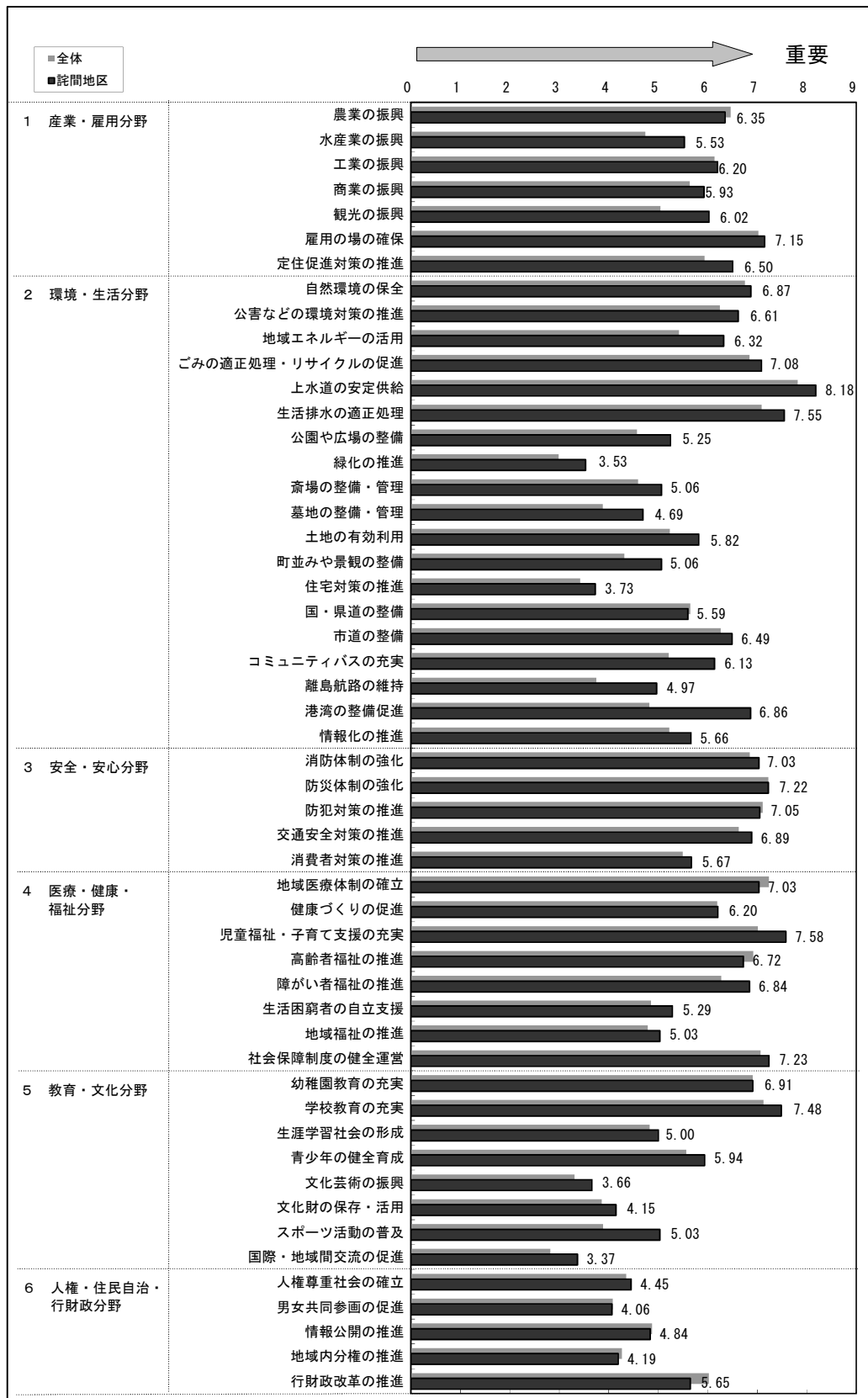
豊中地区

(単位：評価点)



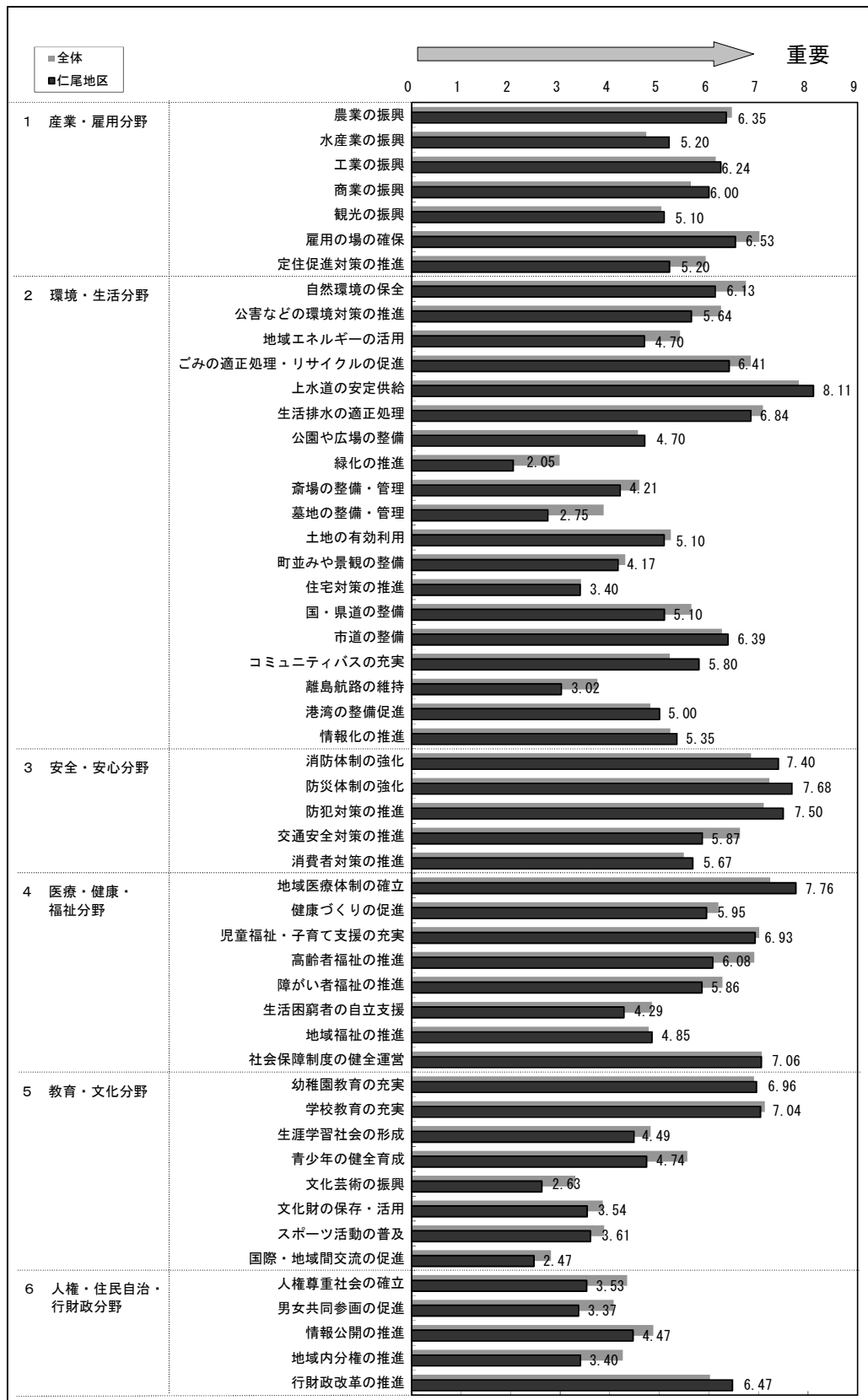
詫間地区

(単位：評価点)



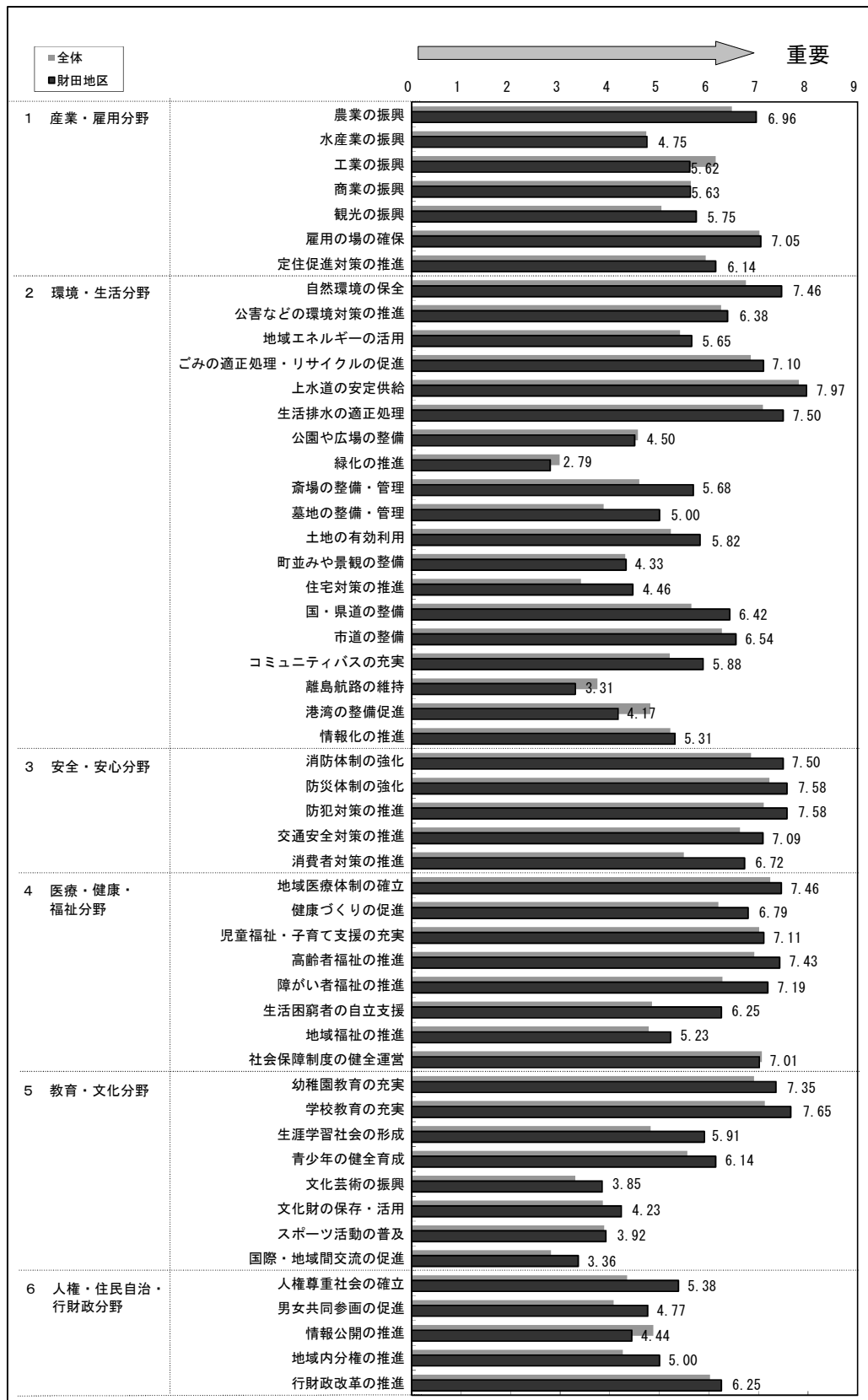
仁尾地区

(単位：評価点)



財田地区

(単位：評価点)



(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 満足度と重要度の相関からみた優先度が最も高い項目は「雇用の場の確保」。
次いで「農業の振興」、「工業の振興」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図による数量化【後述参照】で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

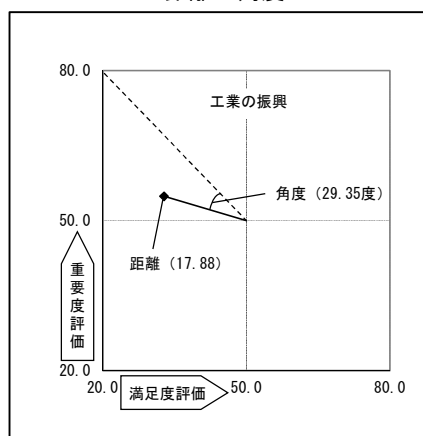
この結果をみると、優先度は、「雇用の場の確保」（21.06 点）が第 1 位で、次いで第 2 位が「農業の振興」（16.00 点）、第 3 位が「工業の振興」（12.05 点）、以下、「定住促進対策の推進」（11.96 点）、「防犯対策の推進」（11.22 点）、「地域医療体制の確立」（9.17 点）、「市道の整備」（9.08 点）、「自然環境の保全」（8.84 点）、「商業の振興」（8.83 点）、「社会保障制度の健全運営」（7.90 点）などの順となっています。

〔図表 8・9 参照〕

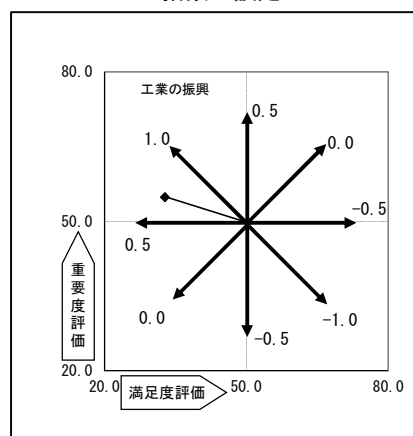
※散布図による評価点（優先度）の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「鉄道の状況」→満足度偏差値 32.78…、重要度偏差値 54.82…
- ② ①で算出した偏差値から、平均（中心）からの距離を算出する。
例：「鉄道の状況」→ $17.88\cdots = \sqrt{(32.78-50)^2 + (54.82-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「鉄道の状況」→29.35 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「鉄道の状況」→ $0.6739 = (90-29.35) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「鉄道の状況」→ $12.05 = 17.88\cdots \times 0.6739\cdots$

距離・角度



指数の設定



重要度評価

満足度評価

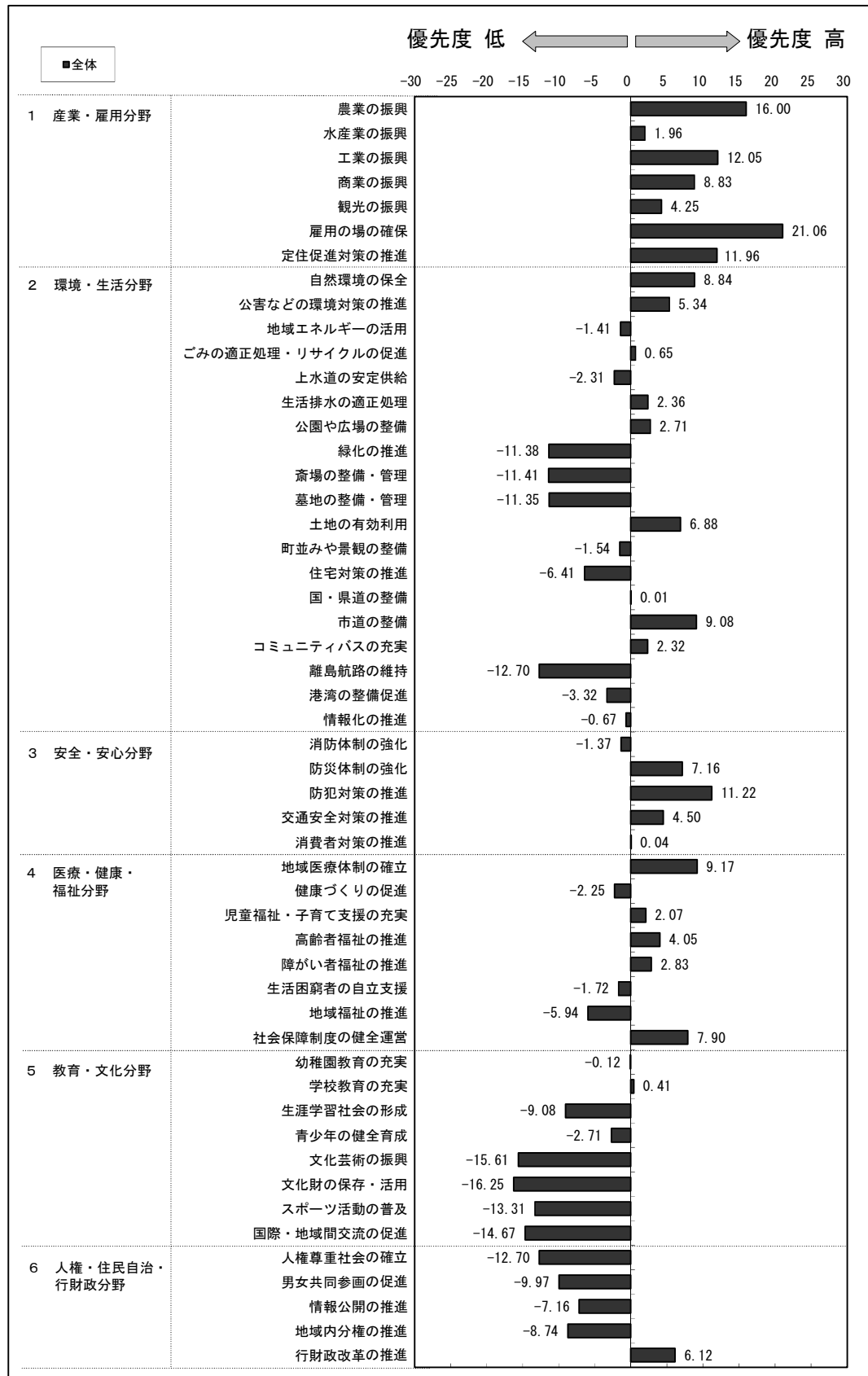
優先度 高

優先度 低

30

図表 9 満足度と重要度の相関（全体／優先度）

（単位：評価点）



(4) 三豊市は住みやすいと感じるか

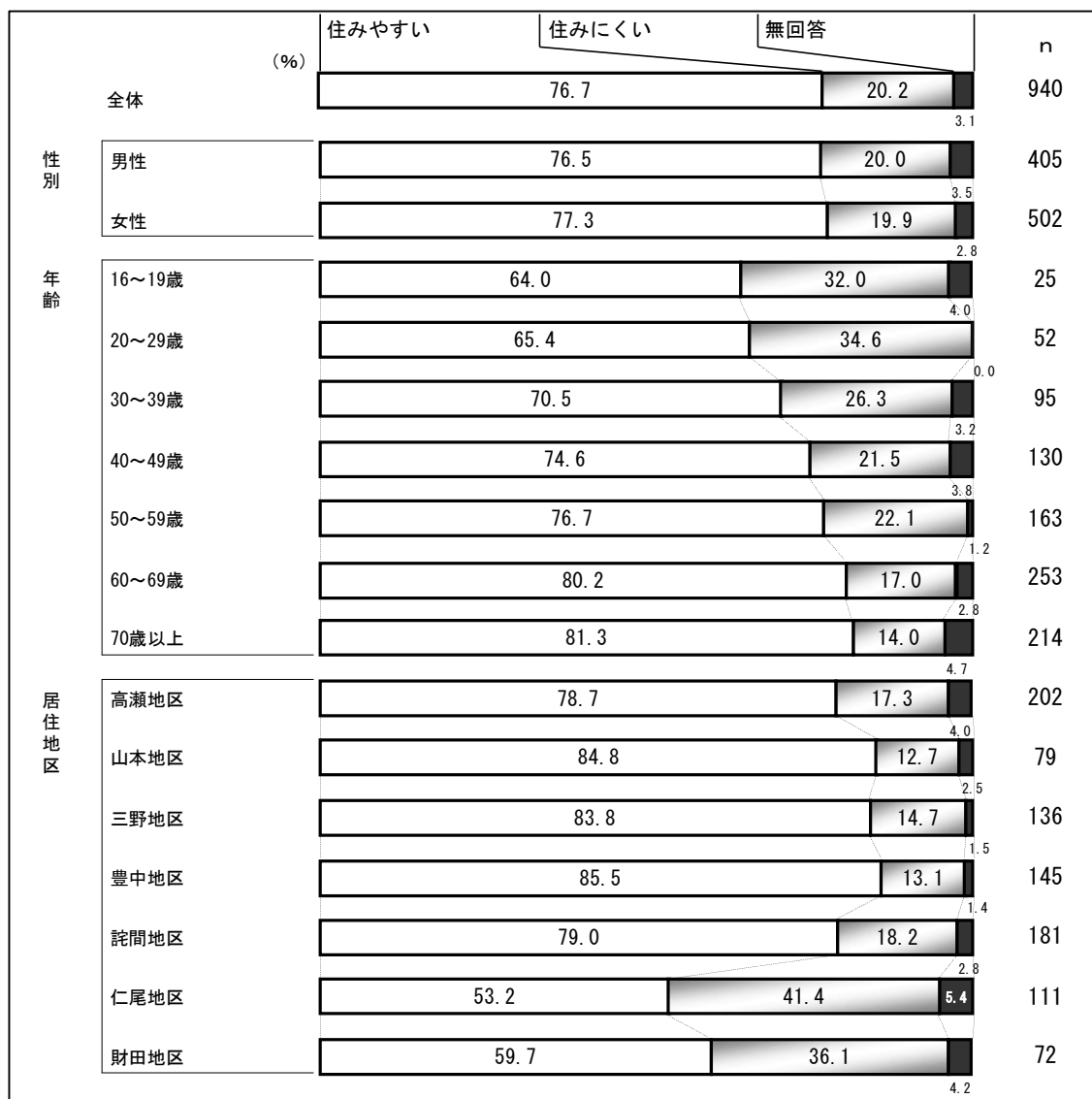
問5 あなたは、三豊市は住みやすいと感じていますか。

- 「住みやすい」は76.7%、「住みにくい」は20.2%となっています。

市の住みやすさについては、「住みやすい」(76.7%)、「住みにくい」(20.2%)となっています。

[図表10参照]

図表10 三豊市は住みやすいと感じるか



(5) 住みやすい理由

【問5で「1.住みやすい」と回答した方のみ】

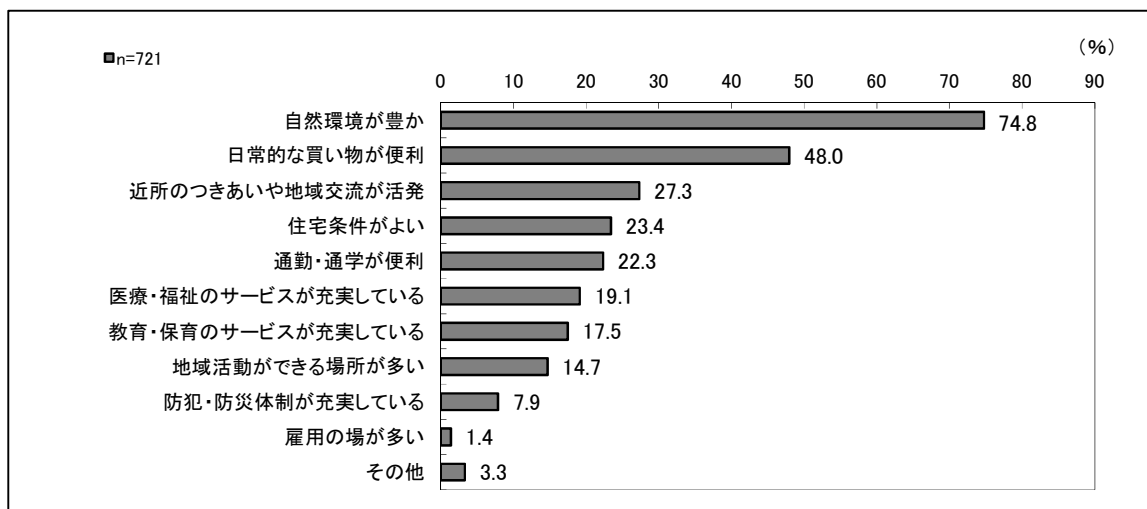
問5-1 「住みやすい」理由はどれですか。【複数回答】



- 「自然環境が豊か」が最も多く 74.8%。

問5で「1.住みやすい」と回答した721人（全体の76.7%）に、その理由をたずねたところ、「自然環境が豊か」（74.8%）、「日常的な買い物が便利」（48.0%）、「近所のつきあいや地域交流が活発」（27.3%）、「住宅条件がよい」（23.4%）、「通勤・通学が便利」（22.3%）、「医療・福祉のサービスが充実している」（19.1%）、「教育・保育のサービスが充実している」（17.5%）、「地域活動ができる場所が多い」（14.7%）、「防犯・防災体制が充実している」（7.9%）、「雇用の場が多い」（1.4%）の順となっています。[図表11・12参照]

図表11 住みやすい理由（全体／複数回答）



図表 12 住みやすい理由（全体・性別・年齢・居住地区—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自然環境が豊か 74.8	日常的な買い物が便利 48.0	近所のつきあいや地域交流が活発 27.3
性別	男性	自然環境が豊か 74.8	日常的な買い物が便利 43.2	近所のつきあいや地域交流が活発 30.0
	女性	自然環境が豊か 75.5	日常的な買い物が便利 52.3	近所のつきあいや地域交流が活発／通勤・通学が便利 25.0
年齢	16～19 歳	自然環境が豊か 68.8	日常的な買い物が便利 37.5	近所のつきあいや地域交流が活発 31.3
	20～29 歳	自然環境が豊か 67.6	日常的な買い物が便利 38.2	住宅条件がよい 23.5
	30～39 歳	自然環境が豊か 62.7	日常的な買い物が便利 58.2	住宅条件がよい 26.9
	40～49 歳	自然環境が豊か 69.1	日常的な買い物が便利 52.6	通勤・通学が便利 34.0
	50～59 歳	自然環境が豊か 80.8	日常的な買い物が便利 39.2	通勤・通学が便利 28.8
	60～69 歳	自然環境が豊か 79.3	日常的な買い物が便利 44.8	近所のつきあいや地域交流が活発 25.6
	70 歳以上	自然環境が豊か 74.7	日常的な買い物が便利 55.2	近所のつきあいや地域交流が活発 33.3
居住地区	高瀬地区	自然環境が豊か 66.0	日常的な買い物が便利 59.1	近所のつきあいや地域交流が活発 25.2
	山本地区	自然環境が豊か 77.6	日常的な買い物が便利 46.3	近所のつきあいや地域交流が活発 32.8
	三野地区	自然環境が豊か 75.4	日常的な買い物が便利 44.7	近所のつきあいや地域交流が活発 25.4
	豊中地区	自然環境が豊か 73.4	日常的な買い物が便利 67.7	通勤・通学が便利 35.5
	詫間地区	自然環境が豊か 72.0	日常的な買い物が便利 46.9	近所のつきあいや地域交流が活発／通勤・通学が便利 21.7
	仁尾地区	自然環境が豊か 96.6	近所のつきあいや地域交流が活発 39.0	住宅条件がよい 33.9
	財田地区	自然環境が豊か 83.7	近所のつきあいや地域交流が活発 44.2	住宅条件がよい／教育・保育のサービスが充実している 25.6

(6) 住みにくい理由

【問5で「2. 住みにくい」と回答した方のみ】

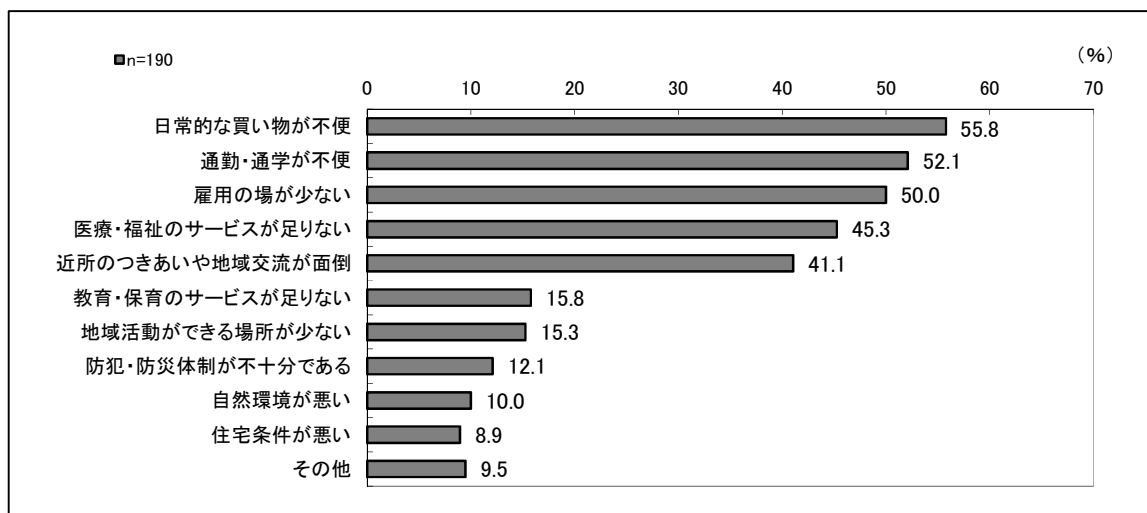
問5-1 「住みにくい」理由はどれですか。【複数回答】



- 「日常的な買い物が不便」が最も多く、次いで「通勤・通学が不便」、「雇用の場が少ない」の順。

問5で「2. 住みにくい」と回答した190人（全体の20.2%）に、その理由をたずねたところ、「日常的な買い物が不便」（55.8%）、「通勤・通学が不便」（52.1%）、「雇用の場が少ない」（50.0%）、「医療・福祉のサービスが足りない」（45.3%）、「近所のつきあいや地域交流が面倒」（41.1%）、「教育・保育のサービスが足りない」（15.8%）、「地域活動ができる場所が少ない」（15.3%）、「防犯・防災体制が不十分である」（12.1%）、「自然環境が悪い」（10.0%）、「住宅条件が悪い」（8.9%）の順となっています。[図表13・14参照]

図表13 住みにくい理由（全体／複数回答）



図表 14 住みにくい理由（全体・性別・年齢・居住地区—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第 1 位	第 2 位	第 3 位
全体		日常的な買い物が不便 55.8	通勤・通学が不便 52.1	雇用場が少ない 50.0
性別	男性	日常的な買い物が不便 54.3	通勤・通学が不便 51.9	雇用場が少ない 45.7
	女性	日常的な買い物が不便 56.0	雇用場が少ない 53.0	通勤・通学が不便 51.0
年齢	16～19 歳	通勤・通学が不便 75.0	日常的な買い物が不便 50.0	近所のつきあいや地域交流が面倒 37.5
	20～29 歳	通勤・通学が不便 77.8	日常的な買い物が不便 61.1	雇用場が少ない 55.6
	30～39 歳	雇用場が少ない 56.0	日常的な買い物が不便 52.0	近所のつきあいや地域交流が面倒／通勤・通学が不便 48.0
	40～49 歳	日常的な買い物が不便 67.9	通勤・通学が不便 64.3	医療・福祉のサービスが足りない 60.7
	50～59 歳	雇用場が少ない 63.9	近所のつきあいや地域交流が面倒 58.3	通勤・通学が不便 52.8
	60～69 歳	日常的な買い物が不便／雇用場が少ない 60.5		通勤・通学が不便 44.2
	70 歳以上	医療・福祉のサービスが足りない 63.3	日常的な買い物が不便 56.7	通勤・通学が不便 33.3
居住地区	高瀬地区	近所のつきあいや地域交流が面倒 51.4	医療・福祉のサービスが足りない 48.6	雇用場が少ない 45.7
	山本地区	通勤・通学が不便／雇用場が少ない 60.0		日常的な買い物が不便 50.0
	三野地区	医療・福祉のサービスが足りない 55.0	日常的な買い物が不便／雇用場が少ない 40.0	
	豊中地区	近所のつきあいや地域交流が面倒／通勤・通学が不便／雇用場が少ない 57.9		
	詫間地区	雇用場が少ない 54.5	日常的な買い物が不便 48.5	通勤・通学が不便 45.5
	仁尾地区	日常的な買い物が不便 71.7	通勤・通学が不便 65.2	医療・福祉のサービスが足りない 56.5
	財田地区	日常的な買い物が不便 84.6	通勤・通学が不便 69.2	雇用場が少ない 65.4

3 日頃の行動や考えについて

(1) 地域での自主的な活動への参加

問6 三豊市新総合計画を策定し、現在まで市が実施してきたことで、どのような成果を挙げられたのか等を把握するため、あなたの日頃の行動や考えについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで○印をつけてください。

- 1 あなたは、地域での自主的な活動（環境美化活動、防災活動、自治会活動等）に参加していますか。

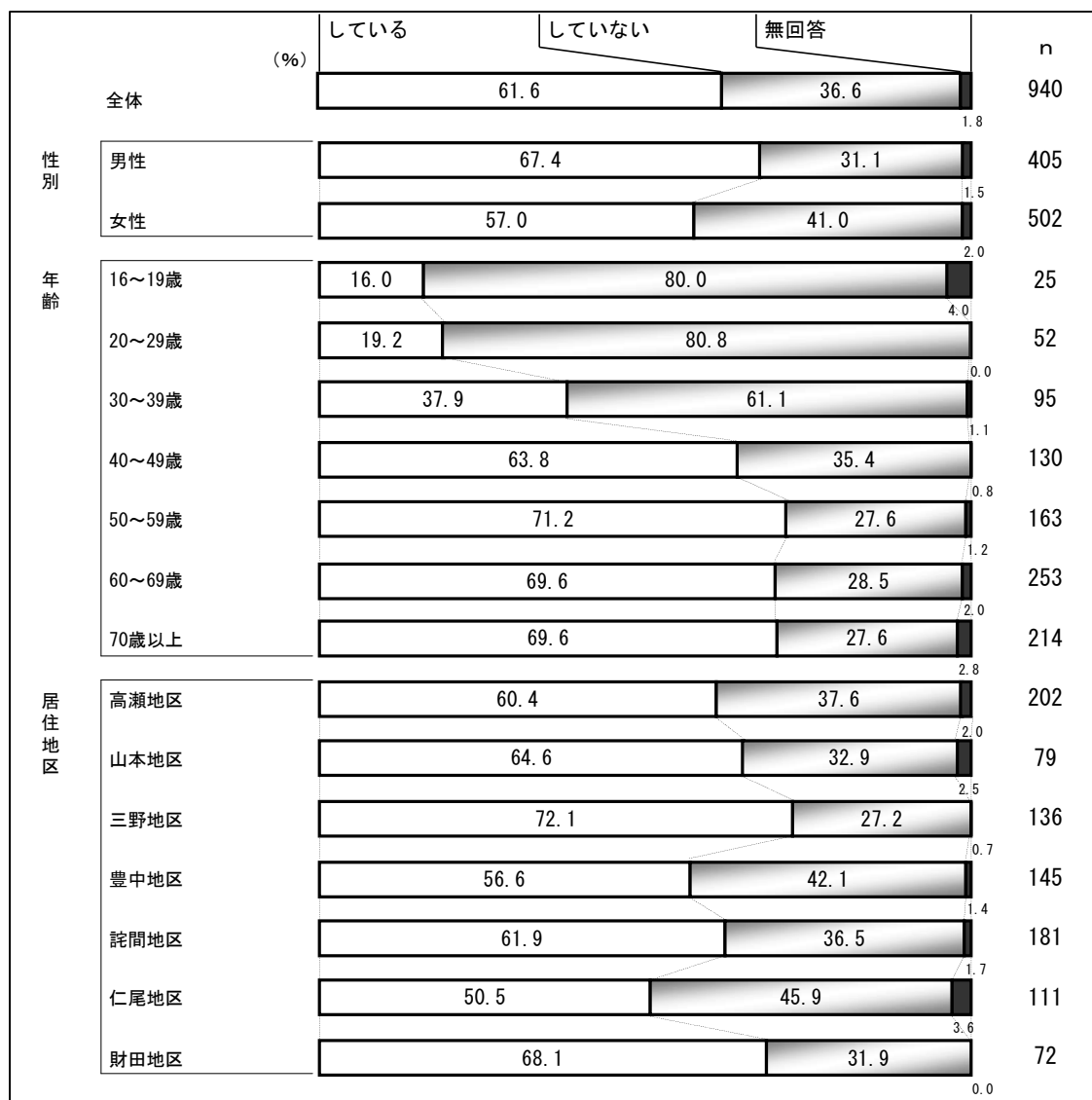


● 地域での自主的な活動に参加している人は61.6%。

地域での自主的な活動への参加については、「している」と答えた人が61.6%、「していない」と答えた人が36.6%となっています。

[図表 15 参照]

図表 15 地域での自主的な活動への参加（全体・性別・年齢）



(2) 経済や産業が活発なまちか

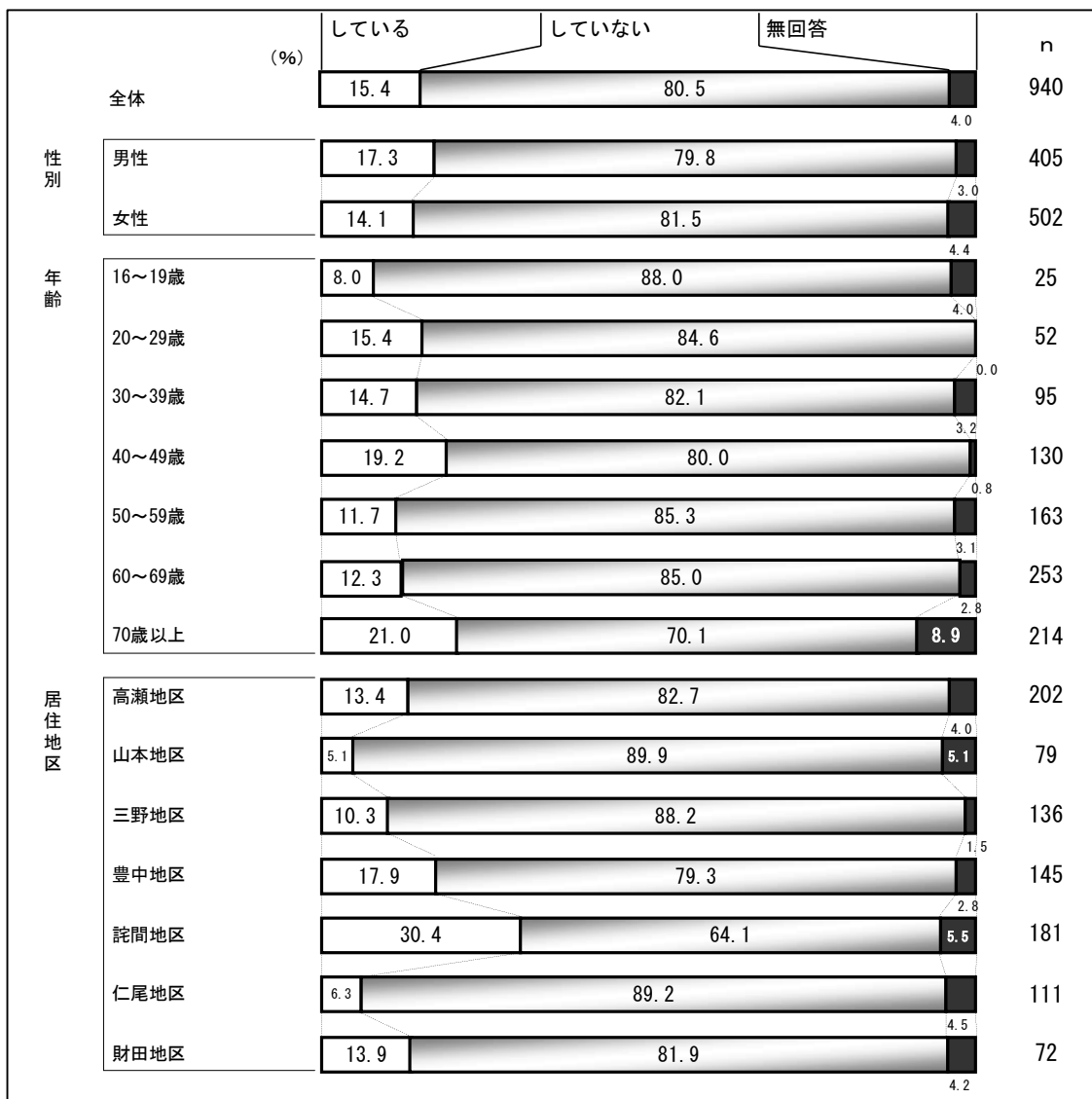
2 あなたは、経済や産業が活発なまちと実感していますか。

● 経済や産業が活発なまちと実感している人は 15.4%。

経済や産業が活発なまちと実感しているかどうかについては、「している」と答えた人が 15.4%、「していない」と答えた人が 80.5%となっています。

[図表 16 参照]

図表 16 経済や産業が活発なまちか（全体・性別・年齢）



(3) 市内の商店での買い物

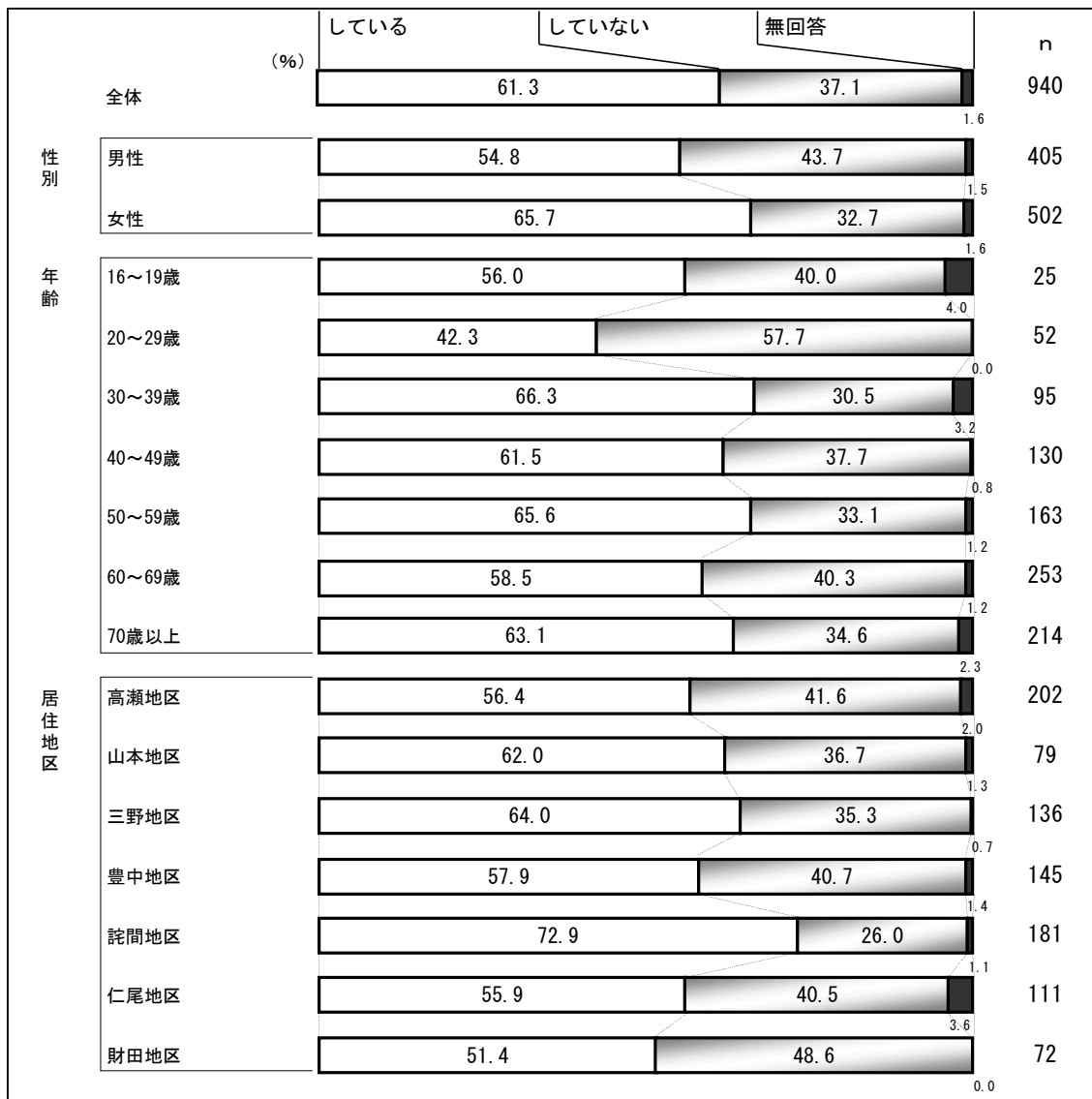
3 あなたは、日頃、市内のお店（大型店以外）で買い物をしていますか。

● 市内の商店で買い物をしている人は 61.3%。

市内の商店での買い物については、「している」と答えた人が 61.3%、「していない」と答えた人が 37.1%となっています。

[図表 17 参照]

図表 17 市内の商店での買い物（全体・性別・年齢）



(4) 安心安全なまちか

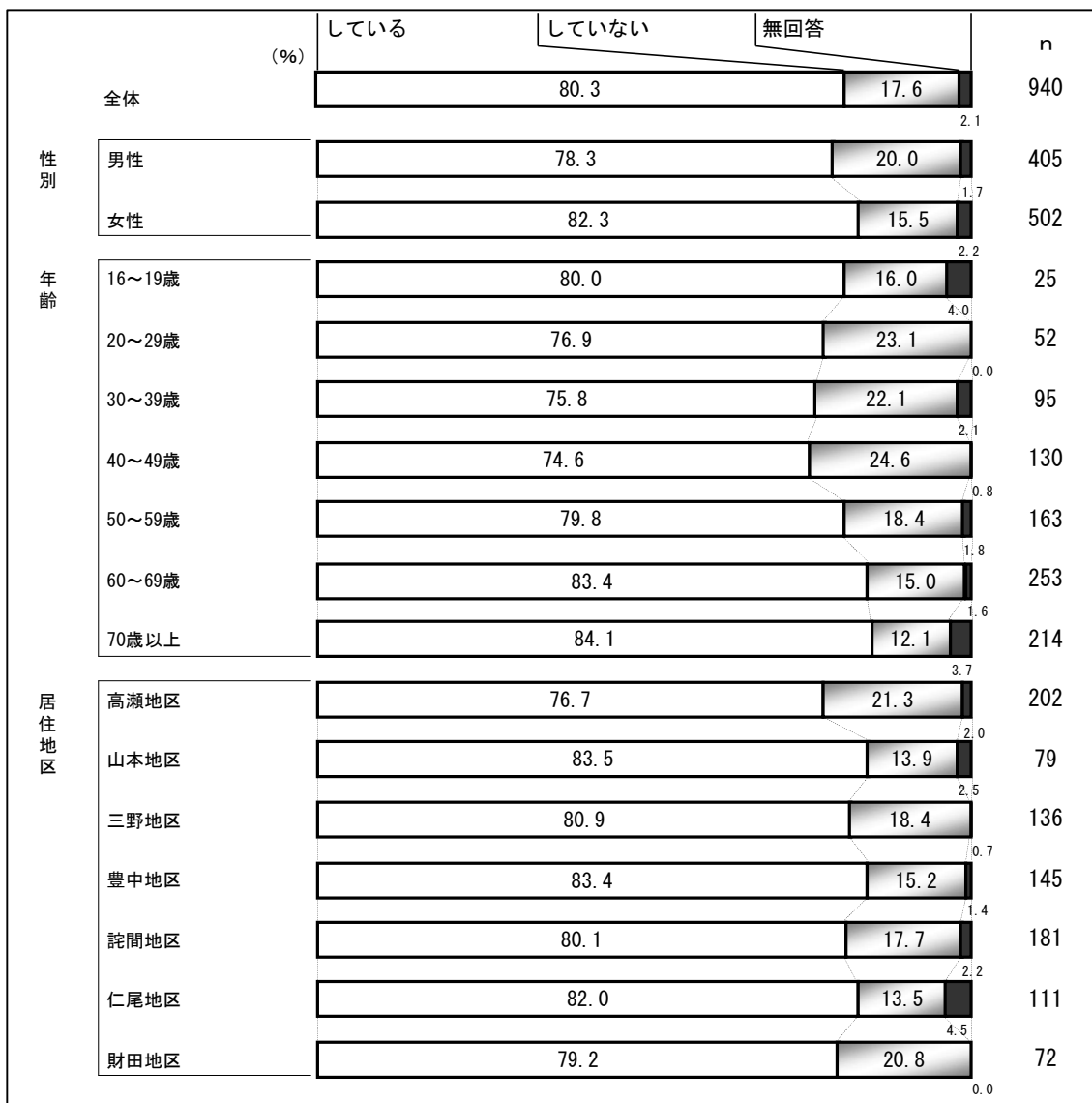
4 あなたは、災害や犯罪が少なく、安心安全なまちと実感していますか。

● 安心安全なまちと実感している人は 80.3%。

安心安全なまちと実感しているかどうかについては、「している」と答えた人が 80.3%、「していない」と答えた人が 17.6%となっています。

[図表 18 参照]

図表 18 安心安全なまちか（全体・性別・年齢）



(5) 災害に対する備え

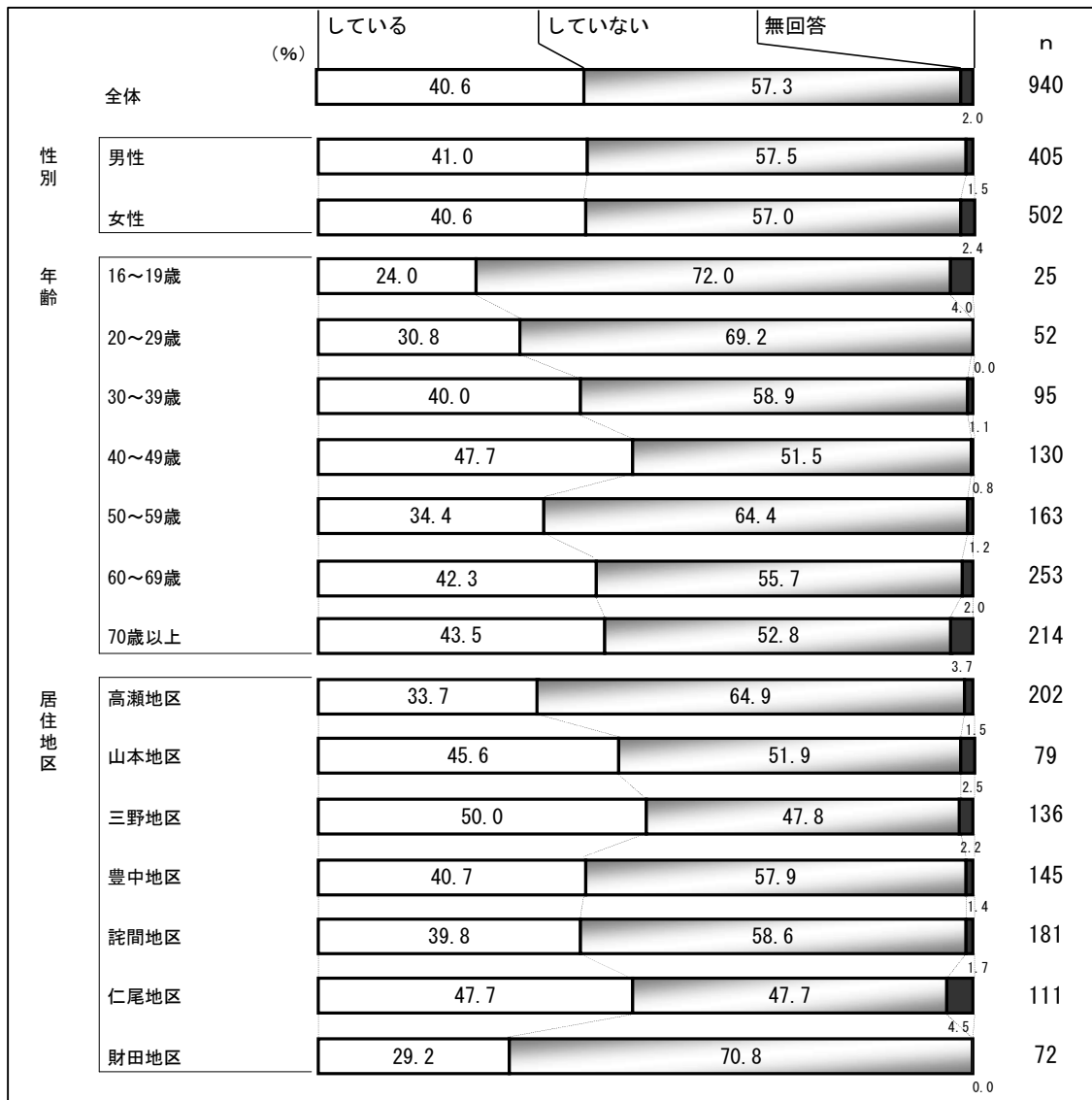
5 あなたは、ご自宅で、災害に対する備えをしていますか。

● 自宅で災害に対する備えをしている人は 40.6%。

自宅で災害に対する備えをしているかどうかについては、「している」と答えた人が 40.6%、「していない」と答えた人が 57.3%となっています。

[図表 19 参照]

図表 19 災害に対する備え（全体・性別・年齢）



(6) 市の講座や教室等を利用した生涯学習活動

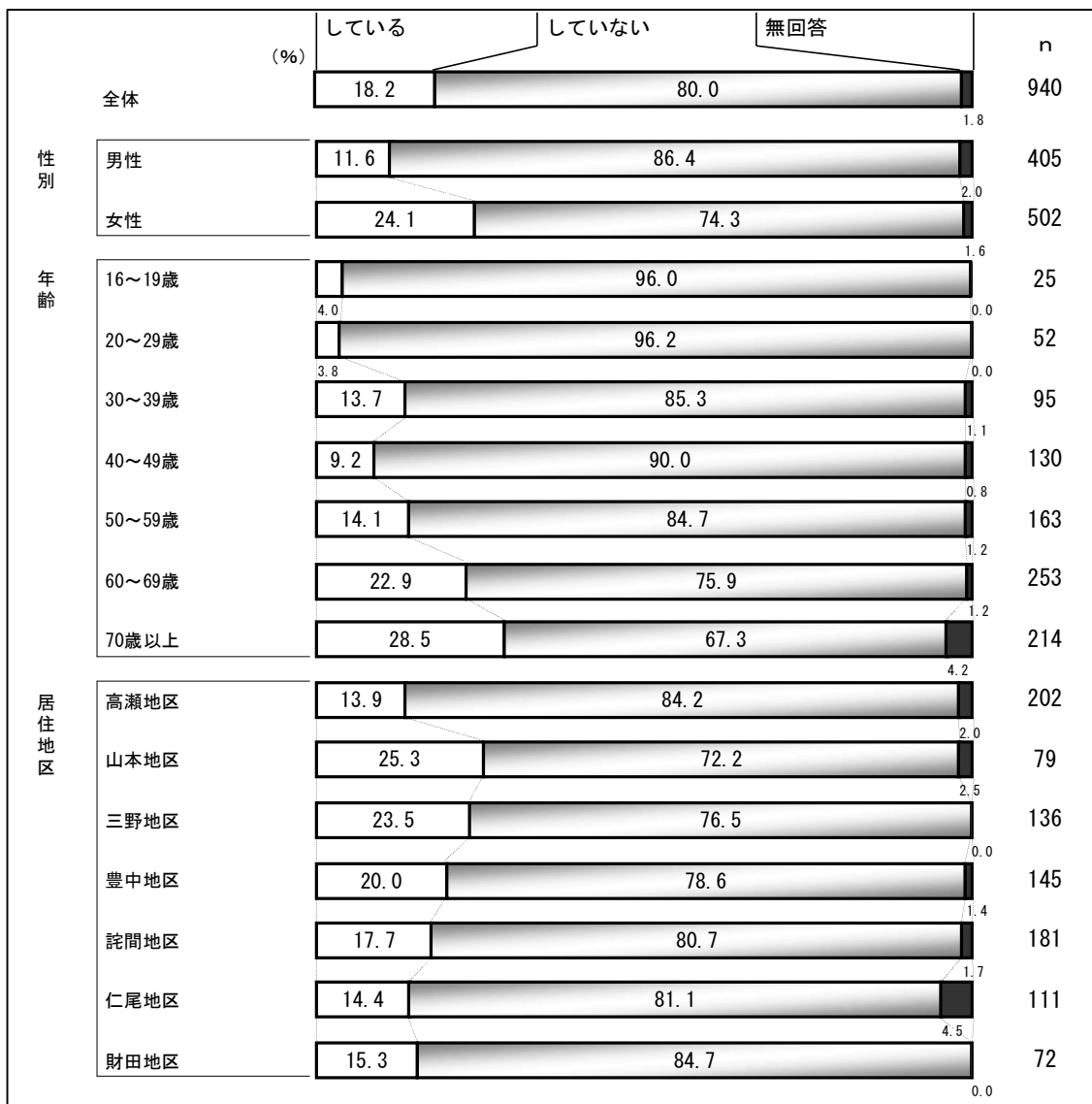
6 あなたは、この1年間に、市の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

● 市の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしている人は18.2%。

市の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「している」と答えた人が18.2%、「していない」と答えた人が80.0%となっています。

[図表 20 参照]

図表 20 市の講座や教室等を利用した生涯学習活動（全体・性別・年齢）



(7) ごみ減量化のための3R運動

7 あなたは、ごみの減量化のため、3R運動〔リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生使用）〕をしていますか。

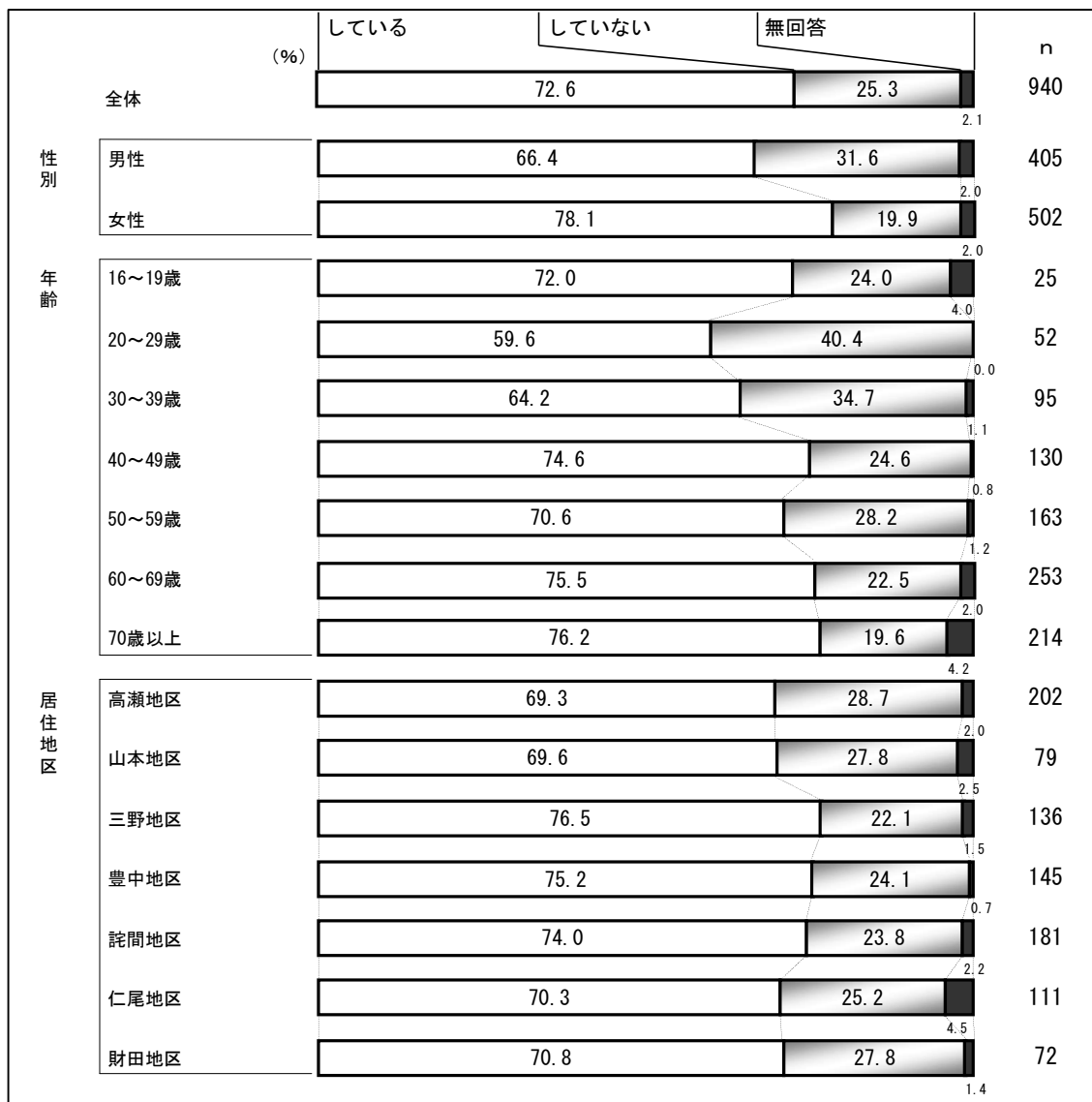


● 3R運動をしている人は72.6%。

ごみの減量化のための3R運動については、「している」と答えた人が72.6%、「していない」と答えた人が25.3%となっています。

[図表 21 参照]

図表 21 ごみ減量化のための3R運動（全体・性別・年齢）



(8) 環境に配慮した生活

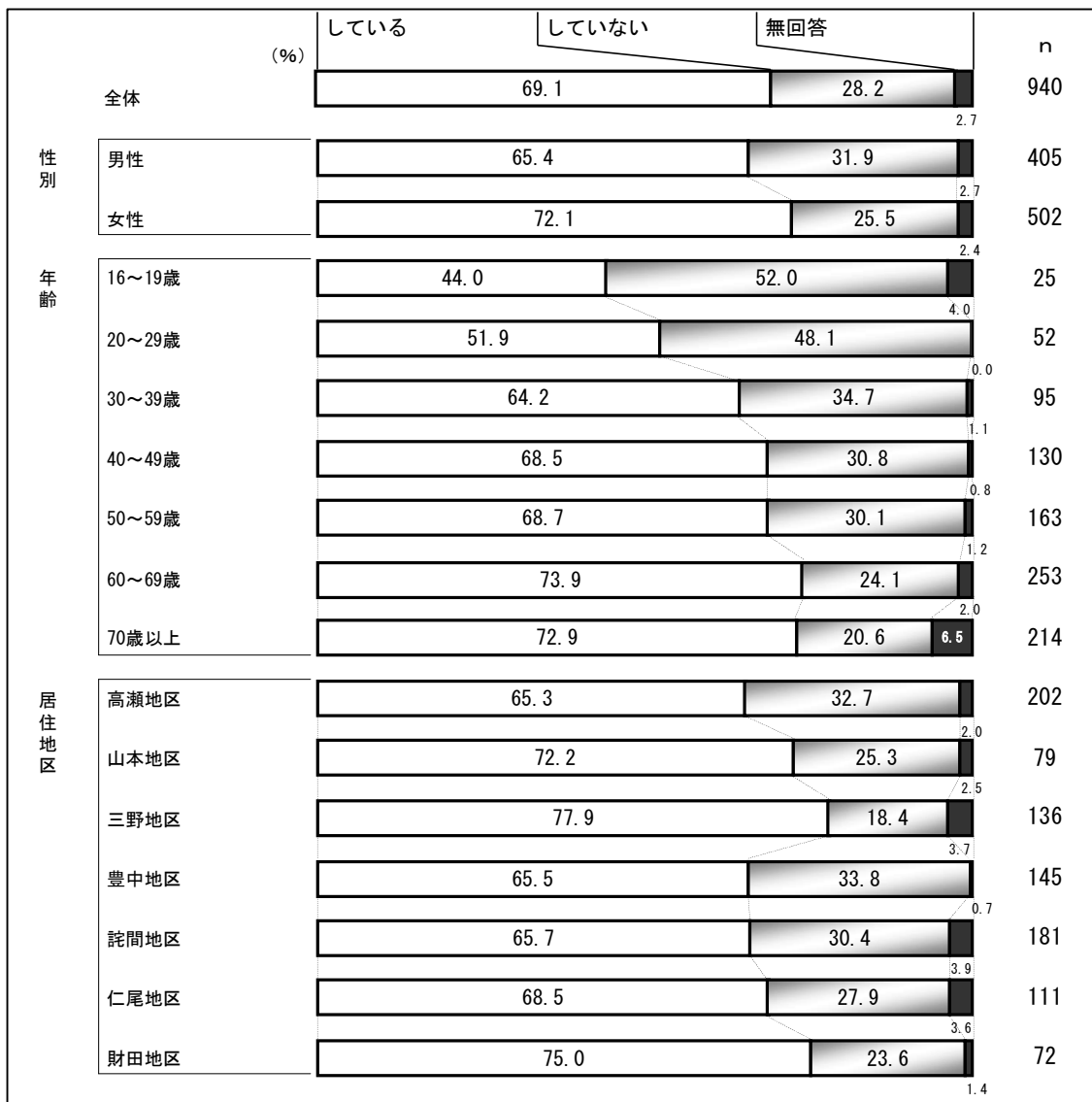
8 あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

● 環境に配慮した生活をしている人は 69.1%。

環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が 69.1%、「していない」と答えた人が 28.2%となっています。

[図表 22 参照]

図表 22 環境に配慮した生活（全体・性別・年齢）



(9) 健康増進のための取り組み

9 あなたは、日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

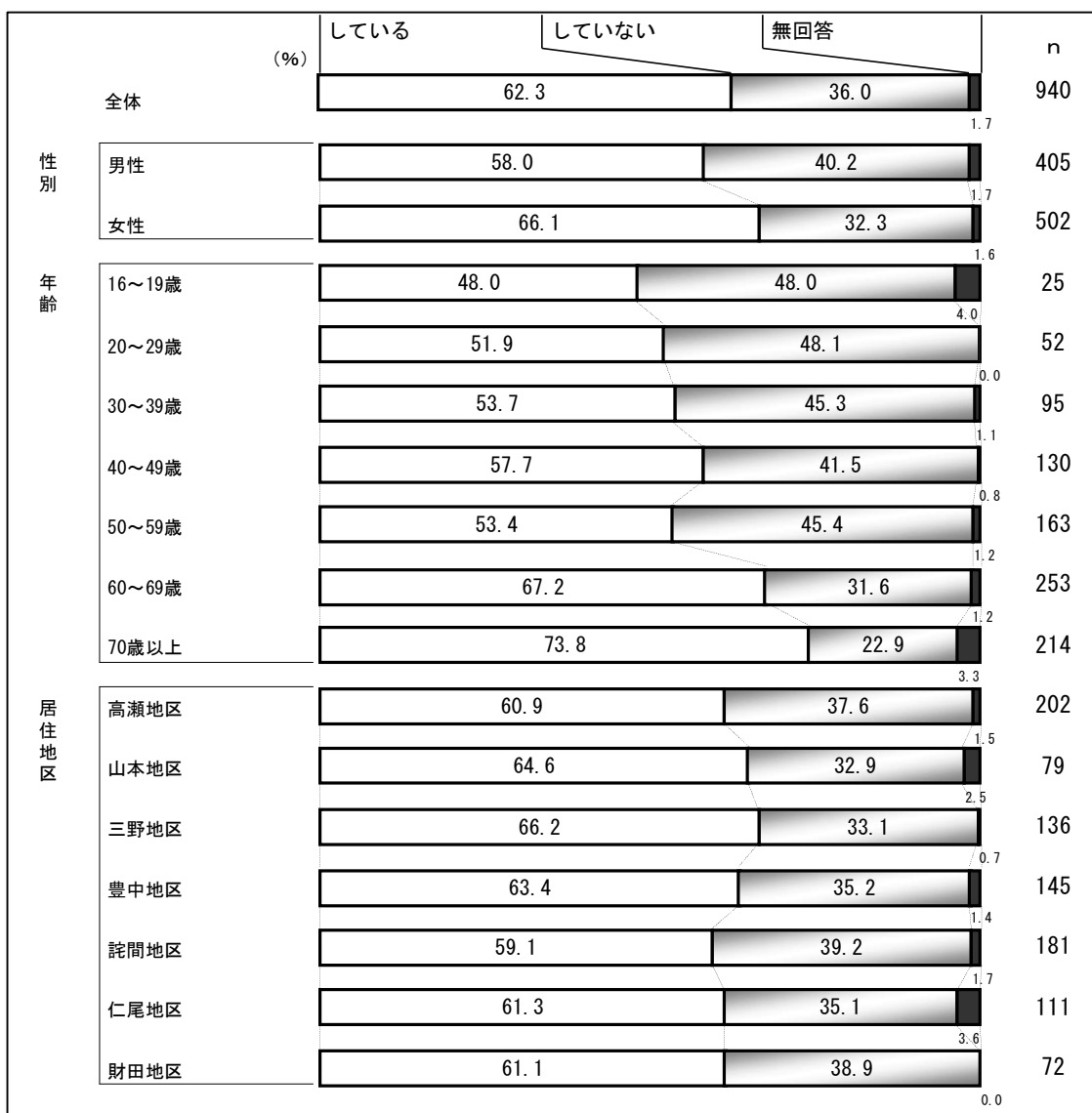


● 健康増進のための取り組みをしている人は 62.3%。

健康増進のための取り組みについては、「している」と答えた人が 62.3%、「していない」と答えた人が 36.0%となっています。

[図表 23 参照]

図表 23 健康増進のための取り組み（全体・性別・年齢）



(10) 地域福祉活動への参加

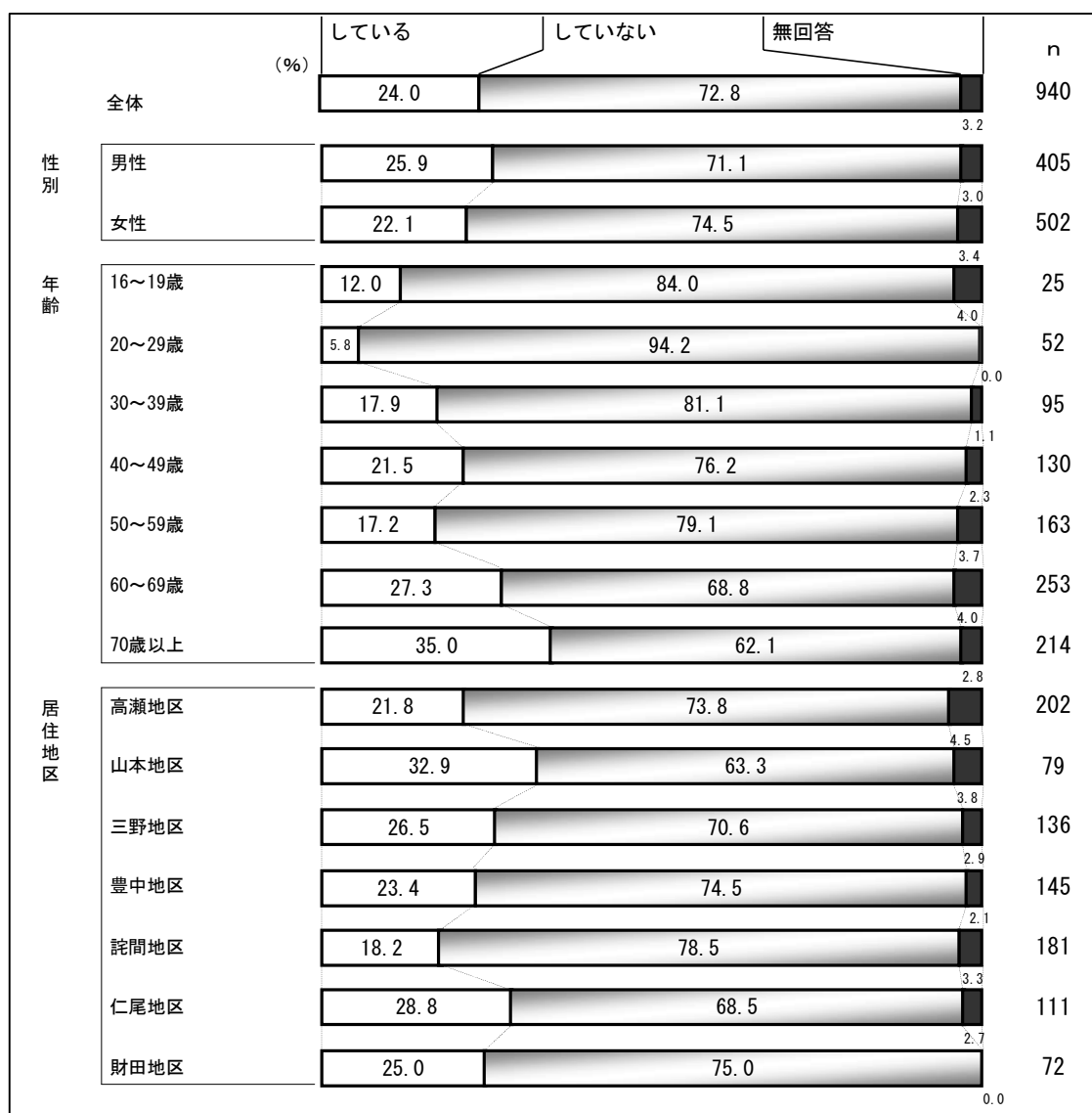
10 あなたは、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加していますか。

● 地域福祉活動に参加している人は 24.0%。

地域福祉活動への参加については、「している」と答えた人が 24.0%、「していない」と答えた人が 72.8%となっています。

[図表 24 参照]

図表 24 地域福祉活動への参加（全体・性別・年齢）



(11) 週 1 回以上のスポーツ活動

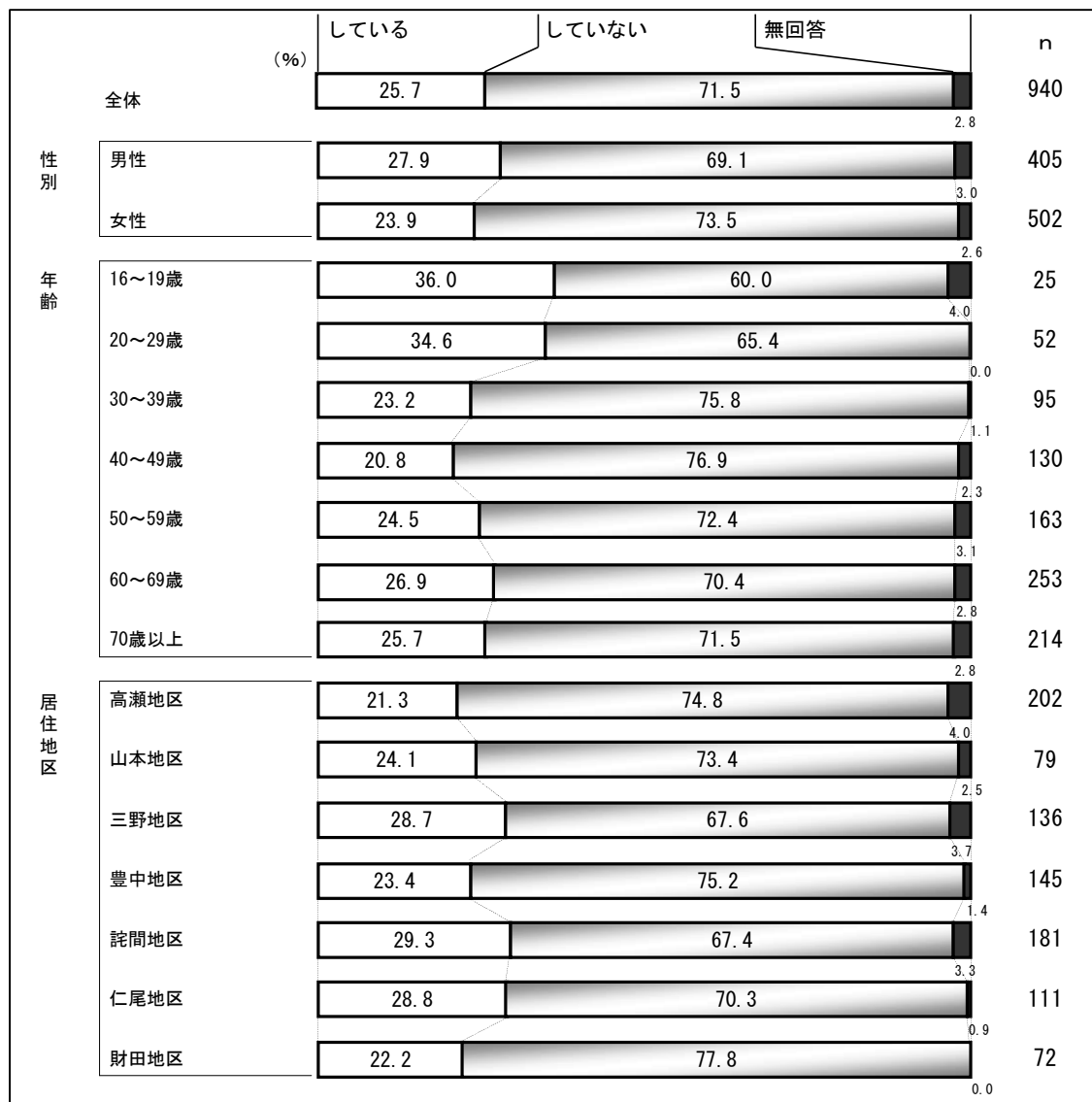
11 あなたは、週 1 回以上、スポーツ活動をしていますか。

● 週 1 回以上のスポーツ活動をしている人は 25.7%。

週 1 回以上のスポーツ活動については、「している」と答えた人が 25.7%、「していない」と答えた人が 71.5%となっています。

[図表 25 参照]

図表 25 週 1 回以上のスポーツ活動（全体・性別・年齢）



(12) 公共交通機関の利用

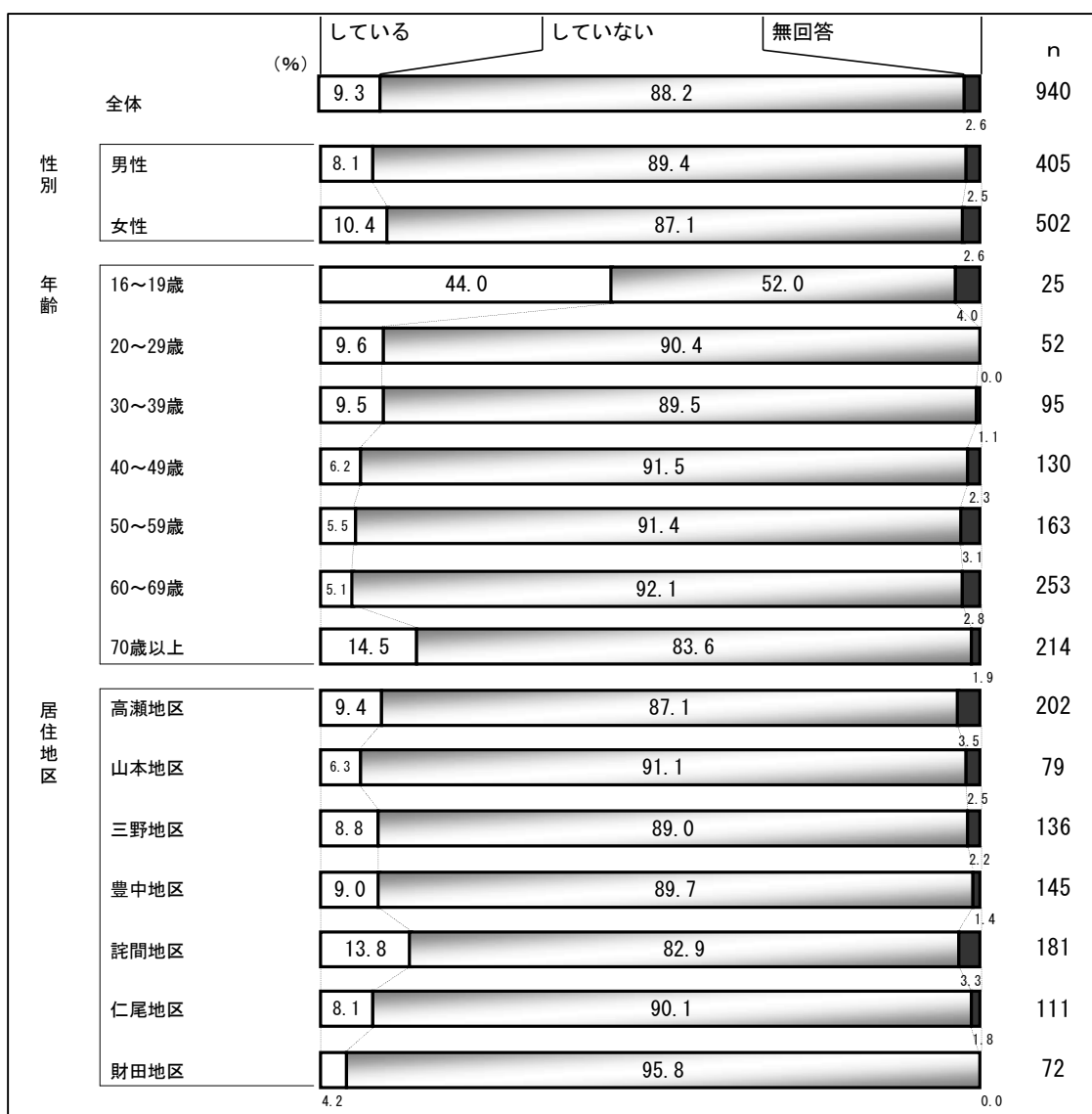
12 あなたは、普段、できるだけ公共の交通機関を利用するようにしていますか。

- できるだけ公共交通機関を利用している人は 9.3%。

公共交通機関の利用については、「している」と答えた人が 9.3%、「していない」と答えた人が 88.2%となっています。

[図表 26 参照]

図表 26 公共交通機関の利用（全体・性別・年齢）



(13) 市内の道路利用の快適さ

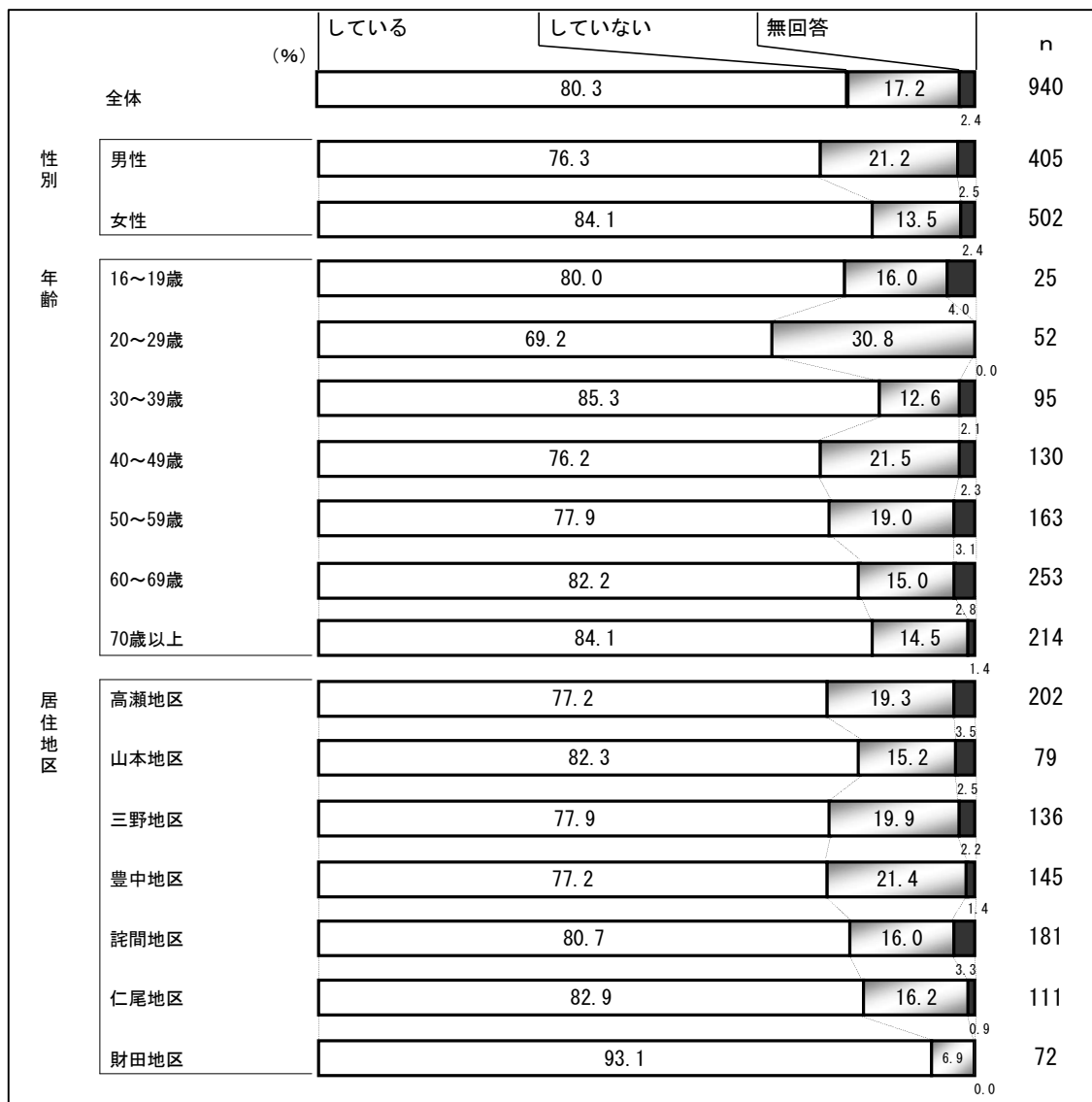
13 あなたは徒歩、自転車、車などで、市内の道路を快適に利用していますか。

● 市内の道路を快適に利用している人は 80.3%。

市内の道路の快適な利用については、「している」と答えた人が 80.3%、「していない」と答えた人が 17.2%となっています。

[図表 27 参照]

図表 27 市内の道路利用の快適さ（全体・性別・年齢）



(14) 自分らしい暮らし方

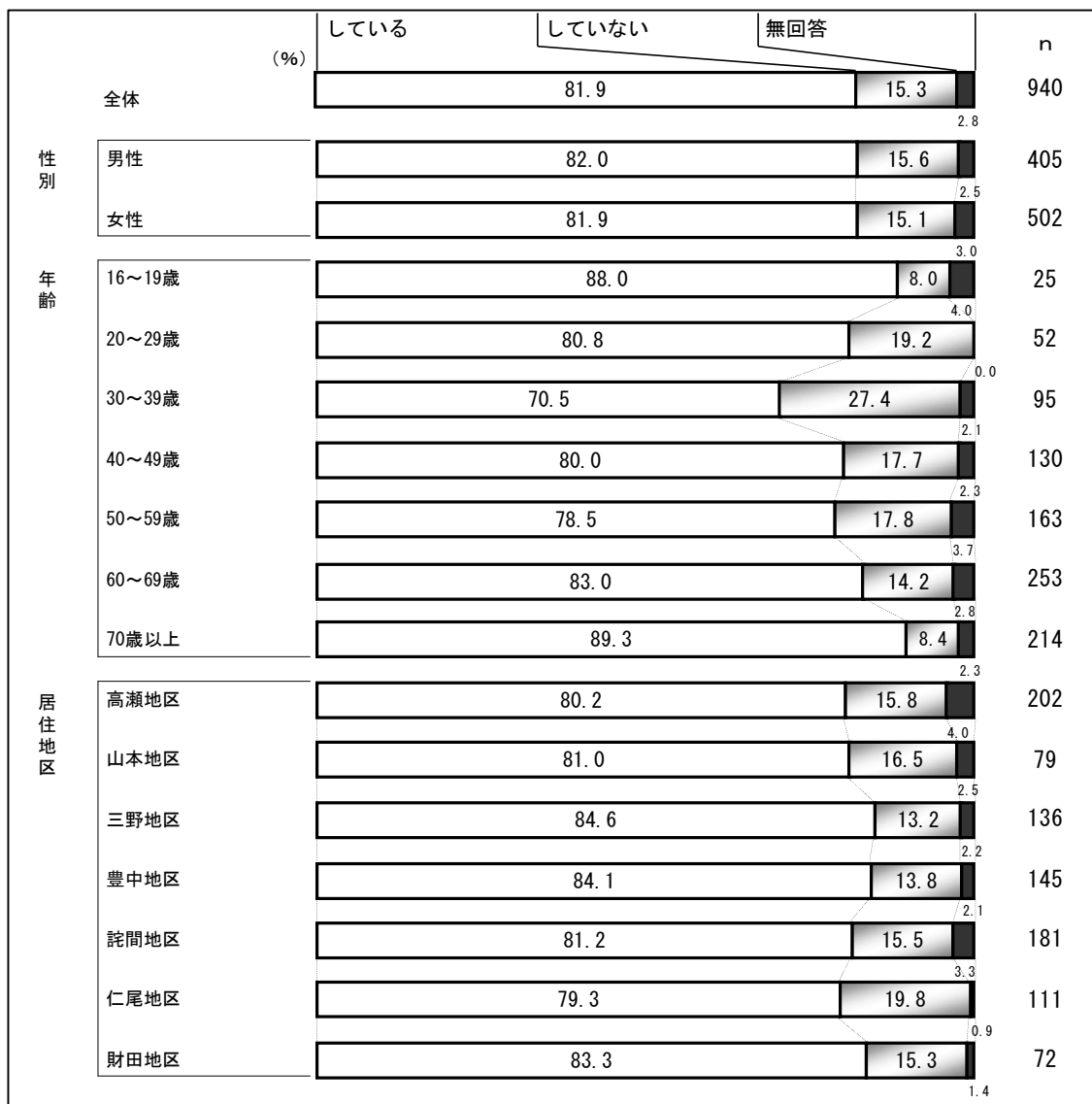
14 あなたは、自分らしい暮らし方をしていますか。

● 自分らしい暮らし方をしている人は 81.9%。

自分らしい暮らし方については、「している」と答えた人が 81.9%、「していない」と答えた人が 15.3%となっています。

[図表 28 参照]

図表 28 自分らしい暮らし方（全体・性別・年齢）



(15) 外国人との交流

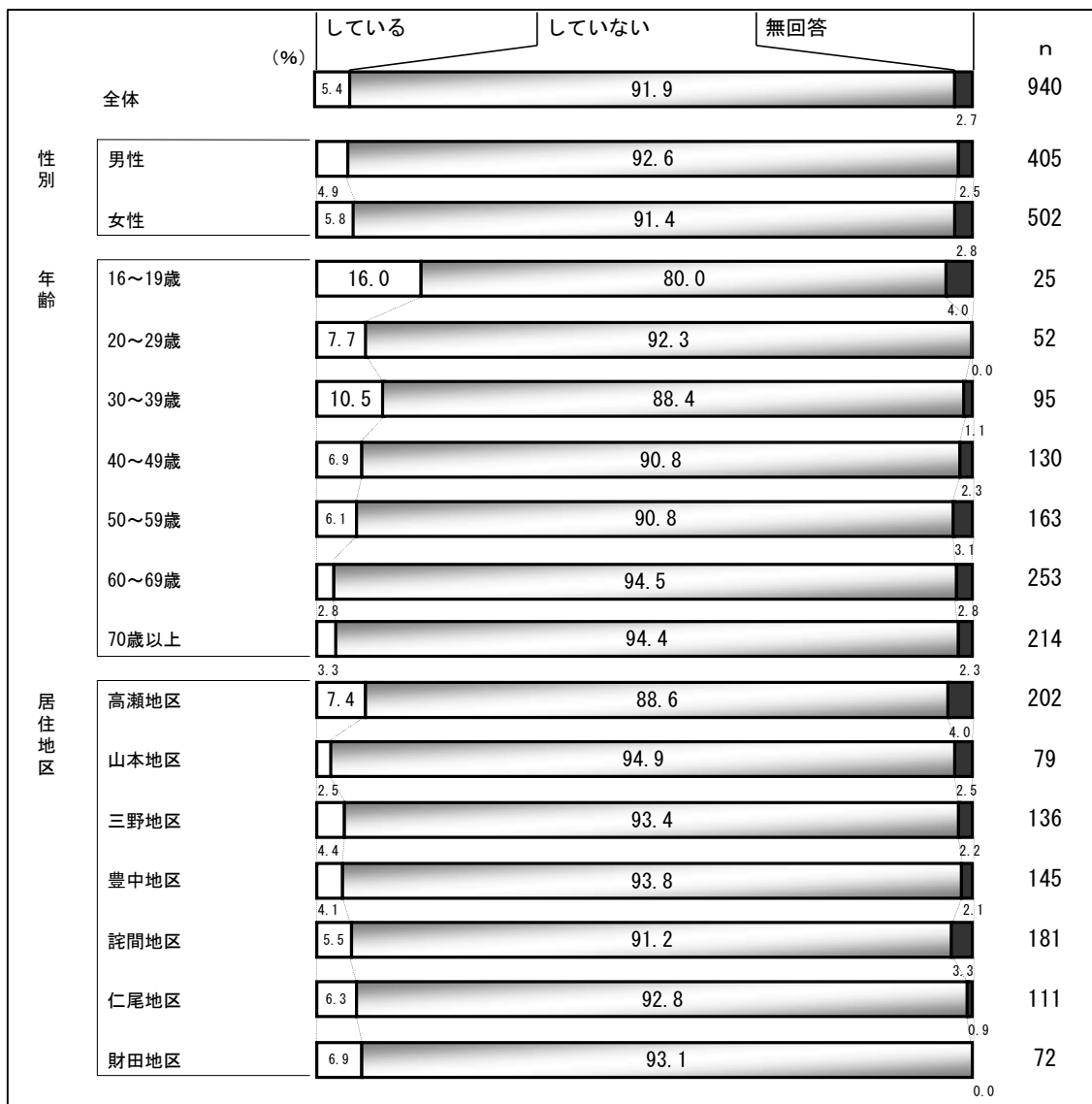
15 あなたは、市内で外国人の方と交流をしていますか。

● 外国人との交流をしている人は 5.4%。

外国人との交流については、「している」と答えた人が 5.4%、「していない」と答えた人が 91.9%となっています。

[図表 29 参照]

図表 29 外国人との交流（全体・性別・年齢）



(16) 意欲のある人が働きやすい環境か

16 あなたは、性別や年齢を問わず、意欲のある人が働きやすい環境が整っていると思いますか。

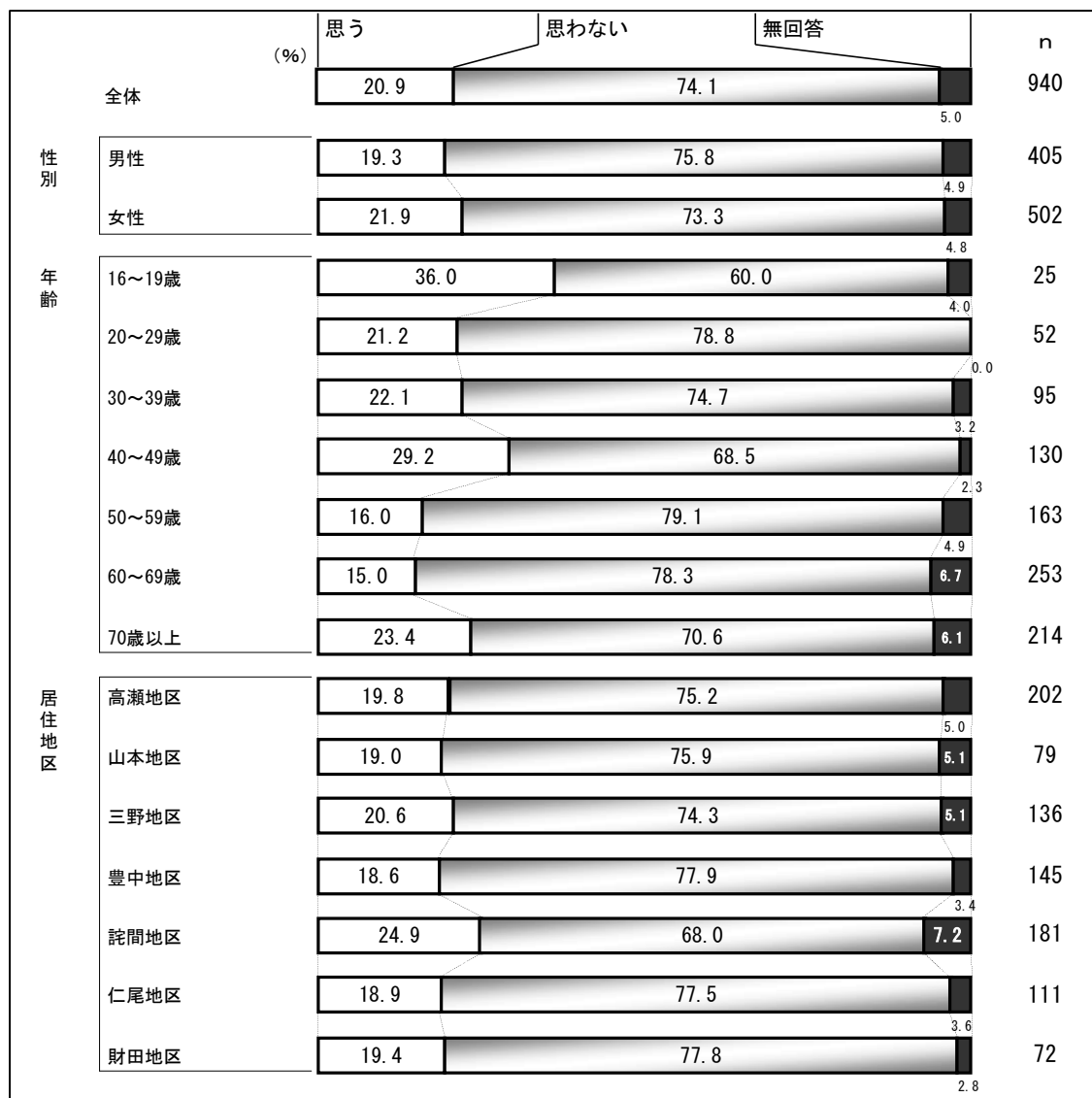


- 意欲のある人が働きやすい環境だと思う人は 20.9%。

意欲のある人が働きやすい環境かどうかについては、「思う」と答えた人が 20.9%、「思わない」と答えた人が 74.1%となっています。

[図表 30 参照]

図表 30 意欲のある人が働きやすい環境か（全体・性別・年齢）



(17) 若い世代が働きやすいまちだと思うか

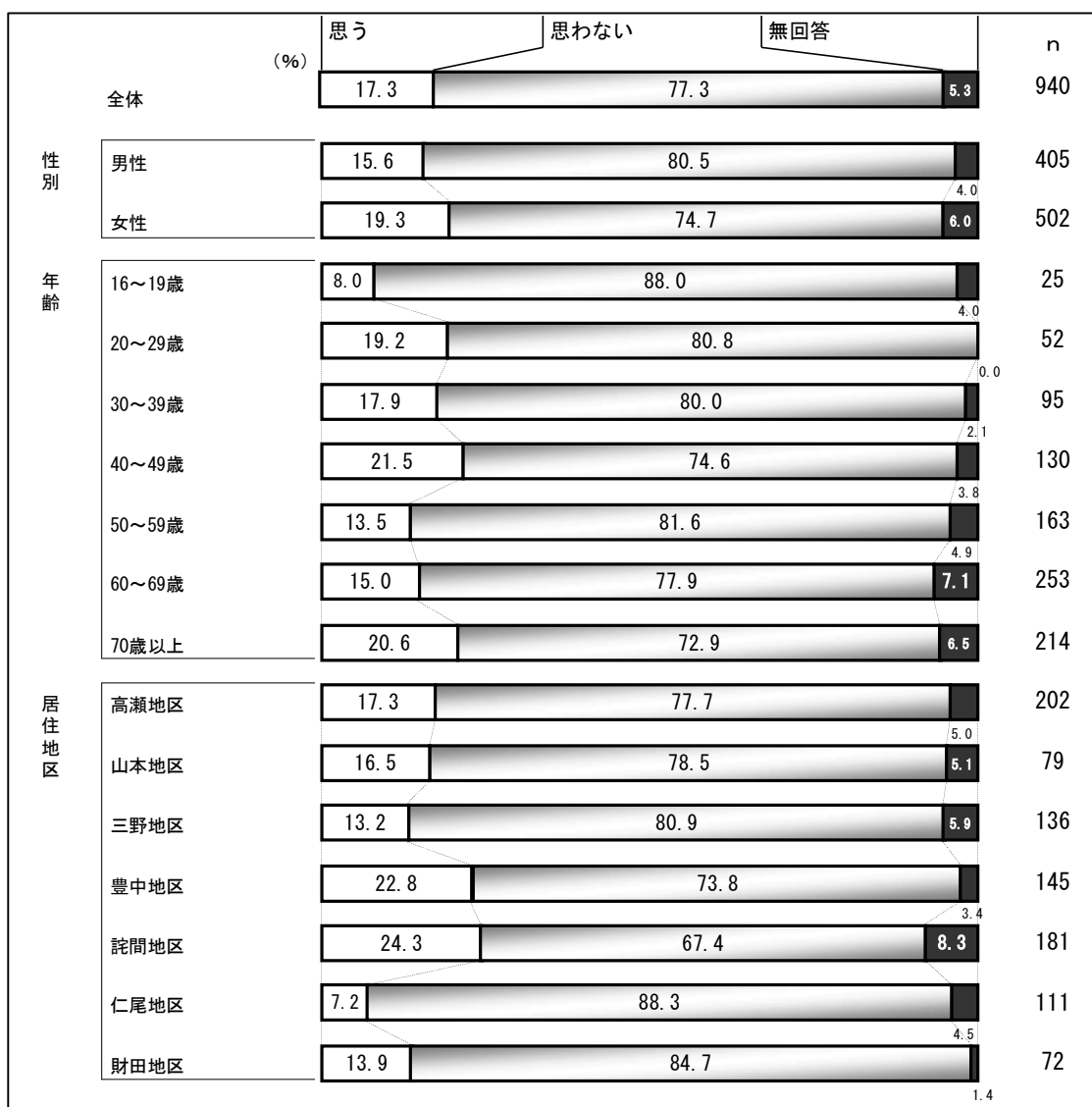
17 あなたは、若い世代が働きやすいまちになっていると思いますか。

- 若い世代が働きやすいまちだと思う人は 17.3%。

若い世代が働きやすいまちかどうかについては、「思う」と答えた人が 17.3%、「思わない」と答えた人が 77.3%となっています。

[図表 31 参照]

図表 31 若い世代が働きやすいまちだと思うか（全体・性別・年齢）



(18) 若い世代が暮らしたいと思うまちか

18 あなたは、若い世代が暮らしたいと思う魅力的なまちになっていると思いますか。

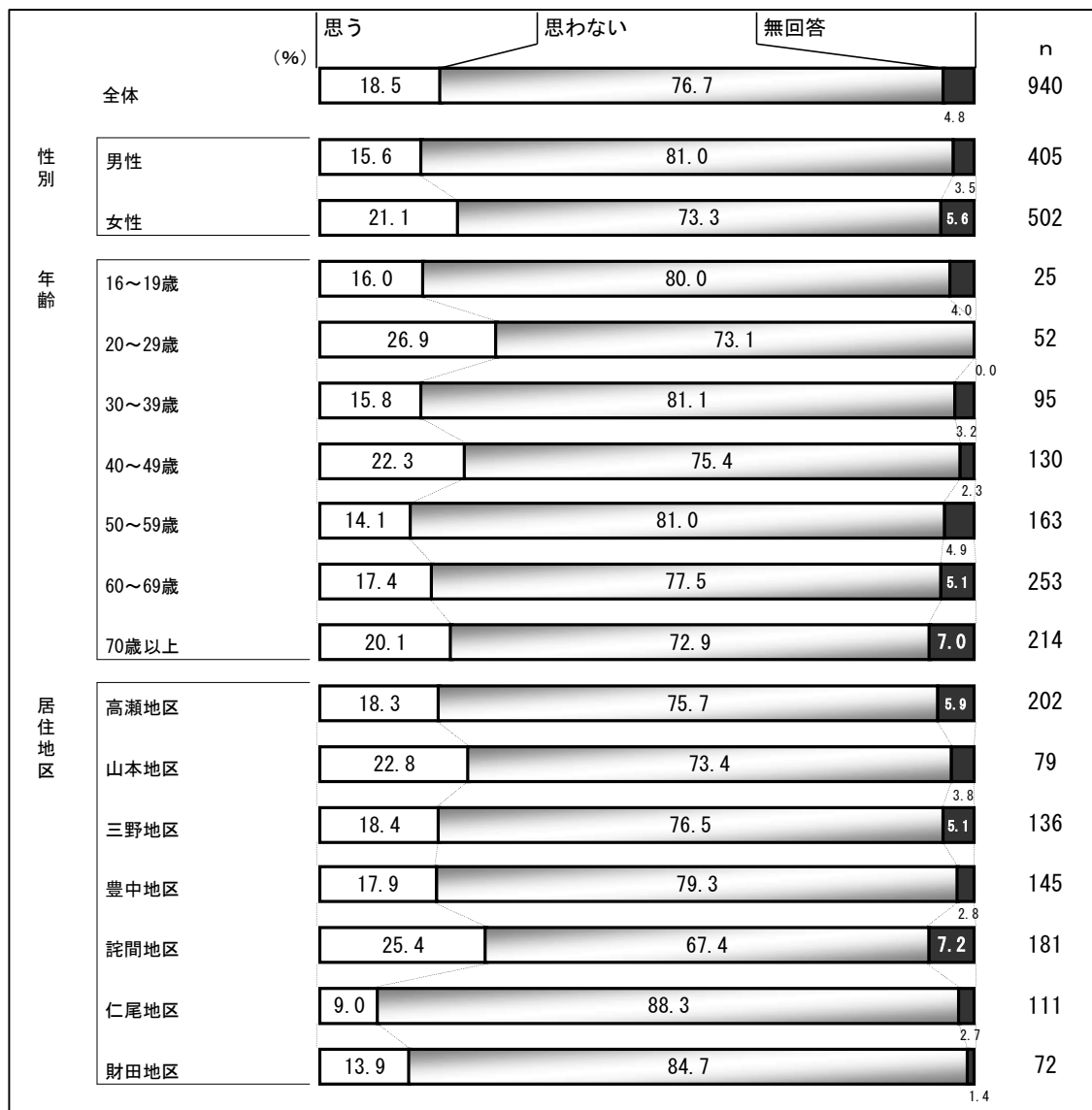


- 若い世代が暮らしたいと思う人は 18.5%。

若い世代が暮らしたいと思うまちかどうかについては、「思う」と答えた人が 18.5%、「思わない」と答えた人が 76.7%となっています。

[図表 32 参照]

図表 32 若い世代が暮らしたいと思うまちか（全体・性別・年齢）



(19) 挑戦する人を進んで応援するまちか

19 あなたは、挑戦する人を進んで応援するまちになっていると思いますか。



- 挑戦する人を進んで応援するまちだと思う人は 20.1%。

挑戦する人を進んで応援するまちかどうかについては、「思う」と答えた人が 20.1%、「思わない」と答えた人が 73.5%となっています。

[図表 33 参照]

図表 33 挑戦する人を進んで応援するまちか（全体・性別・年齢）

